

平成26年3月31日



仙台市市民活動サポートセンター 年間報告書（平成25年度）

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

はじめに

1 総括	1	6 資料編
2 場の提供		資料1 サポートセンター年間行事
2-1 貸室、フリースペース	4	資料2 主な項目のサポートセンター利用状況推移
2-2 市民活動シアター	5	資料3 情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室	6	資料4 市民活動共同事務室使用状況一覧
2-4 ロッカー、レターケース	7	資料5 貸室利用状況（部屋別集計）
2-5 パソコン、印刷機	8	資料6 貸室使用時間（曜日・時間別集計）
3 情報の収集・提供		資料7 利用団体分野別集計
3-1 情報掲示等利用	9	資料8 団体情報ストック数 分野別集計
3-2 団体情報の蓄積	10	資料9 図書資料分類別冊数
3-3 市民活動団体への情報提供		資料10 ホームページアクセス件数集計表
3-4 図書の貸出	11	資料11 展示スペース利用状況
3-5 サポートセンター情報の発信	12	資料12 サポートセンター通信「ぱれっと」発行状況
4 相談・問合せ対応	13	資料13 相談・問合せ対応記録集計表
5 交流・連携・その他		資料14 サポートセンター視察・見学・取材対応報告
5-1 外部組織との連携	15	資料15 サポートセンター組織図
5-2 会議・研修	16	
5-3 視察・見学対応		7 事業報告
5-4 防災避難訓練	17	○人材育成事業
5-5 施設維持管理		○交流促進事業
		○誘導啓発事業
		○復興支援事業
		○シアター活性化事業

1. はじめにー総括ー

協働のまちづくりに向けてー市民力を引き出す取組みー

震災から3年が経過した本年。復興公営住宅の建設や、地域の再建計画が進むなど復興が本格化する中、市民が本来持つ力を引き出すと共に、市民活動に一步踏み出す支援を行い、地域づくりに向けた協働が多発するまち仙台に向け、人づくり、土壌づくりに取り組んだ1年だった。

平成25年度の基本方針

従来の市民活動を行っている人々の支援はもとより、まちづくりや市民協働を学ぶ機会などを通じ、多様に、多層に市民活動に参加できる後押しや活躍の場づくりを行います。

支援の重点項目

- (1) 市民活動及びサポートセンターの周知
- (2) 市民活動に関わる市民を増やします
- (3) 市民活動団体・NPOの活動力を強化します。
- (4) 協働が生まれる下地づくり

平成25年度の取り組み 成果と課題

以下、本年度の支援の重点項目に従い整理する。

(1)市民活動及びサポートセンターの周知

震災を経験したことにより、新たな市民活動への関心の高まる中、市民活動を知る機会を増やすとともに、市民活動の専門機関である当施設の存在をアピールした。

①市民活動の周知

機関紙ばれっとやWEBを活用し、市民活動団体の情報を広く発信し、また被災された方には復興支援サポセンかわら版を通じて支援情報を届けた。

②サポートセンターの周知

実施事業の成果物として冊子やパンフレットを制作し、対象に合った配布先などを開拓した。またホームページのリニューアルを行い、次年度以降の市民活動情報発信の体制を整備した。

成果

市民活動団体のイベントや当施設の主催事業などの情報を掲載しているブログのページビューが前年比約150%と、意識的な情報発信の結果が数字として表れた。これは活動団体や社会のニーズに沿った情報をタイムリーに発信できた結果である。

課題

リニューアルしたホームページを活用し、より効果的な情報発信に向けて取り組む。また、他の公共施設やコミュニティスペースなど、実際に足を運んでのPR活動も重要である。

(2)市民活動に関わる市民を増やします。

東日本大震災後に高まった市民活動やボランティアへの関心だが、実際に参加するにはハードルが高く、そのきっかけを探している市民も多い。そういった方に向け、市民活動をテーマにした気軽に参加できる企画による市民活動に触れる機会づくりを行った。

①興味のあるテーマからはじまる市民活動

新企画としてハジマル・フクラムプロジェクト、お試し市民活動体験を開始した。これらは企画ごとにテーマを変更し、自身に身近で興味のある事から市民活動に触れる機会をつくり、市民の公益的な活動を通じて、一人一人の力がまちの力になる事を伝え、市民力の掘り起しをはかった。

②NPOいろは塾の展開ー続いろは塾の開講ー

NPOの基礎を伝える「NPOいろは塾」受講者のニーズとして多かった「団体立ち上げ」の講座を実施し、活動開始に向けたステップアップの支援体制を構築した。ニーズに応える新たな企画として、NPOいろは塾とセットで実施していきたい。

成果

協働のまちづくりに向けては、多様なアクターが必要である。そのきっかけとして、市民が持つ多様な資源がまちの力として活かすことを、様々な形で伝えることができた。

実際に、企画参加者同士がつながり、新たなプロジェクトが生まれるなど、自発的なアクションにも発展した。

課題

はじめの一步としてのつなぎ方はできたが、継続したアクションを誘発する仕掛けは不足していた。企画から生まれた活動を追い、そのストーリーを可視化する取組を連動して行う事で、さらなる波及効果が生まれると考える。

(3)市民活動団体・NPOの活動力を強化します。

震災後新たに活動を始めた方も多い中、市民活動支援施設として、また仙台市がNPO法人の所轄庁であることから、市民活動団体の活動力強化及び、活動者の人材育成は重要である。

本年度は特に組織基盤に関わる会計、労務と、団体の活動に共感を生む情報発信の企画を中心に実施した。

①NPO運営力強化ー組織基盤ー

本年度は、2012年の法改正から課題とされていたNPO法人の活動計算書移行における専門相談や、安心して働ける場として必要な労務に関する企画を開催した。

特に労務については、講座実施後に相談会を実施するなど、基本的知識の習得から、ケースバイケースの対応まで、専門家のご協力のもと一連の流れで実施する事ができた。

1. はじめにー総括ー

②NPO運営力強化ー情報発信ー

NPOが抱える長年の課題として情報発信、情報公開がある。今年は昨年に引き続き、助成金の報告をテーマにしながら、日々の情報発信の重要性を伝える講座を開講。

ゲストにコミュニティファンドの理事を招き、伝える行為自体が団体のミッション実現にも間接的につながるという内容を、テクニックにとどまらない形で伝えられた。

成果

団体や社会ニーズに沿った企画に加え、「活動相談会」という幅広い受け皿となる企画も実施した結果、当施設未利用の団体も来館するなど、正確なニーズ把握とニーズに対応する企画力が利用者拡大のきっかけとなった。

課題

1つ1つの企画の作り込みはできたが、講座や相談など企画数自体は多くなかった。個別の案件は通常業務の相談で補足していたが、次年度は企画を計画的に実施することが必要である。

(4)協働が生まれる下地づくり

仙台市が市民協働によるまちづくりを掲げる中、市民活動の拠点として、市民の力を可視化し協働を伝えること、市民の力をより活かせるよう適切につなげることに取り組んだ。

また当施設も当事者性をもつ協働の主体者として、地域の課題解決に向けての取り組みを、地域機関と連携して行った。

①協働を知る

市民が協働を学べるサロンや、NLぱれっとで協働のまちづくり特集を組むなど、実際に行われている「協働」を可視化し、市民に身近な言葉にできるよう取り組んだ。また仙台市協働事業提案制度と連携した相談会を実施するなど、具体的なコーディネートも実施。

②協働の主体者として

市内唯一の市民活動支援施設として、地域の機関と連携し、市民の力を引き出す企画に関わった。

泉社会福祉センターでの出張相談会、宮城野文化センター復興交流事業では、主催者と共に事業を検討し、地域や利用者のニーズに沿いつつ、新たな視点の企画を展開した。

成果

当施設自身も協働の主体者となる事で、理論上の協働ではなく、実際に同じ目線で事業を考え、実践するという協働のプロセスを踏むことができた。特に地域機関と当施設の協働事業は、今後のモデル事業となる取組であり、次年度以降はこの成果を展開し、仙台市全域における地域エンパワメント機能の強化をはかりたい。

課題

協働という言葉が市民から遠い現状があり、もっとあたりまえに存在するものとして、地域の中にある協働を可視化し、市民に伝わりやすい形で伝えていくことが必要である。

2. 場の提供

2-1. 貸室、フリースペース

貸室とフリースペースを合わせた諸室の総利用件数は7,989件、総利用人数は57,034名だった。昨年度と比較すると件数が101%、人数が95%となった。

諸室を利用した総団体数は、今年度は793団体(フリースペースを利用した個人のボランティアなども含む)であり、昨年度の782団体から10団体程増加した。

	件数	人数
貸室計	3,181	45,032
フリー利用計	4,808	12,002
諸室計	7,989	57,034
対前年度増減率	101%	95%
前年度諸室利用計	7,949	59,897

■ 貸室

開館日数(335日)に対する研修室の使用率は年間平均90%程度であり、昨年度と同率で高止まりとなっている。セミナーホール、研修室5以外は、90%以上の利用率で、研修室1、研修室2、研修室4では、昨年を上回る利用率であった。定員10名~20名程度の会議室がより利用される傾向にあることがうかがわれる。市民活動シアターは、昨年度と開館日数の違いはあったが、利用率に変化は見られなかった。(市民活動シアターの詳細はP5を参照)。

	件数	人数	使用率	前年度使用率
セミナーホール	317	12,222	78%	79%
研修室1	562	4,219	94%	93%
研修室2	683	6,439	96%	95%
研修室3	477	4,074	90%	91%
研修室4	623	3,796	94%	93%
研修室5	431	8,294	87%	88%
小計	3,093	39,044	90%	90%
市民活動シアター	88	5,988	26%	26%
合計	3,181	45,032		

曜日別、時間別の使用時間数では、水曜日は休館日があるため利用が少なく、土日は午後の時間帯を中心に利用が高い。平日は午前・午後・夜間に利用が分散している。(資料6参照)

■ フリースペース

事務用ブースや交流サロンなどのフリースペースは前年度比102%の件数、89%の人数であった。件数は増加し、人数は減少した。これは、1件当たりの人数が減少したことを意味しており、フリースペースの利用のされ方が、少人数での打ち合わせや事務作業など、本来の設置目的に沿った利用に変わってきていることを示している。

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
フリースペース	件	2,818	4,720	4,808
	人	9,452	13,481	12,002
前年度増減率	件	70%	167%	102%
前年度増減率	人	66%	142%	89%

■ 総括

フリースペースの利用件数が増加したことで、諸室の利用件数が増加した。利用人数はフリースペース、貸室ともに減少。フリースペースでの利用が、少人数での利用にシフトし、その分、定員10~20名の小さな貸室の利用が増えたが、定員の多いセミナーホール、研修室5の利用が減ったため、全体での利用者数の減少につながった。

諸室を利用した793団体のうち利用回数が多い順に上位20団体を抽出すると、下表の通りとなった。交流サロンを利用している学生団体の他、国際交流、福祉・シニア、健康など、定期的な学習会や当事者ミーティングを行っている分野が多くなった。

利用上位20団体の内訳

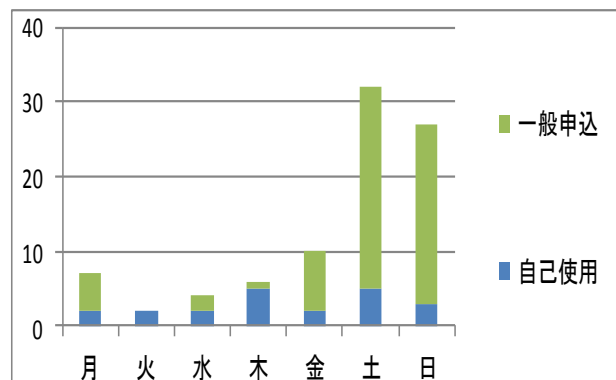
	団体数(a)
学生団体	5
国際交流	3
福祉・シニア	3
健康・スポーツ	3
その他(復興、芸術など)	6
合計	20

2. 場の提供

2-2. 市民活動シアター

市民活動シアター（以下、シアター）の利用日数は年間88日、利用率は33%だった。一般来場者数、出演者や主催団体のスタッフ数を加えると、合計5,988名がシアターを利用した。

昨年度から比較すると件数では一般申込が昨年度より13件増加、自己使用も18件増加した。ただし昨年度は工事のため開館日数が少なかったこともあり、利用率は26%と変化はなかった。



■曜日別利用率と利用件数

	月	火	水	木	金	土	日	年間
申込件数	7	2	4	6	10	32	27	88
内自己使用	2	2	2	5	2	5	3	21
年間利用率	13%	4%	15%	12%	20%	62%	53%	26%
前年度利用率	15%	2%	8%	4%	17%	67%	63%	26%

■利用属性と利用内容

利用者の属性はNPO、実行委員会、愛好会が多かった。利用内容はコンサートが多く、次いで交流イベント、シンポジウム・講演会が多かった。

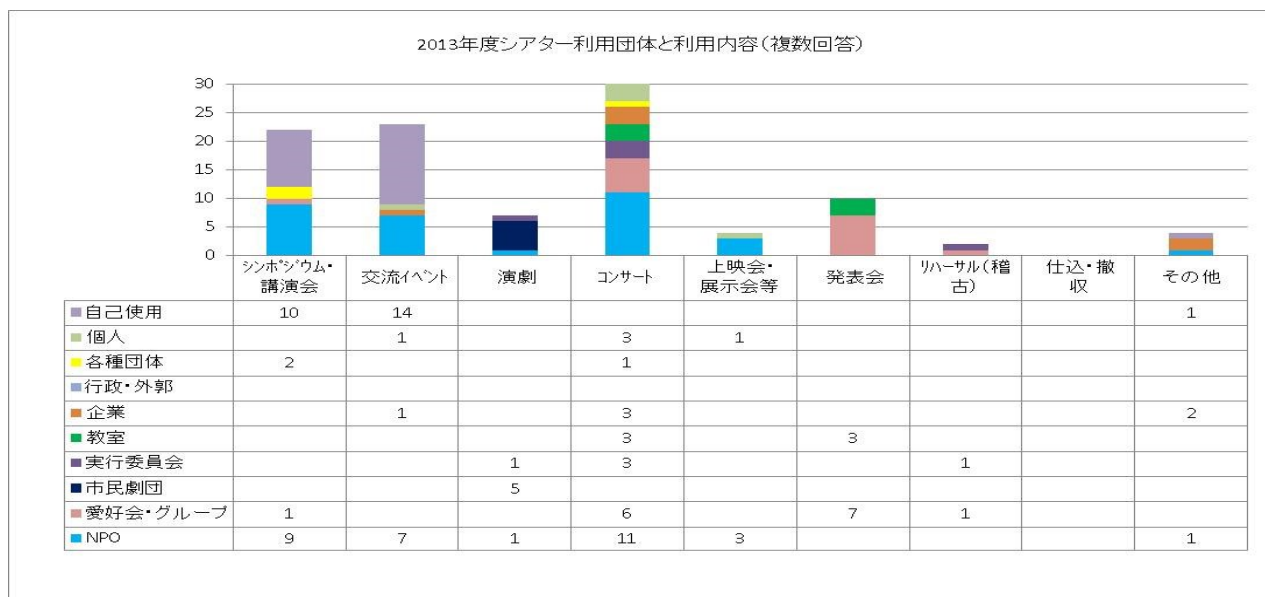
■考察

利用内容として主だったのは、例年通り教室・愛好会・NPOが行うコンサートや発表会が多く見られた。また、NPOがシンポジウムを行い、その後に交流会を

行うケースや、自己使用においても、ゲストを招いてのシンポジウムと交流会を合わせたイベントが多く行われた。

これは演じる側一見る側という関係性を前提とした企画だけでなく、誰かの表現を題材としながらも、それに誘発された人同士が有機的な関係を作っていく場として活用されていると言える。シアターは市民文化を支える場として、表現を通じた交流や学び合いの場として、今の仙台市民に必要な機能が共存しており、多様性ある市民活動支援施設にある劇場としての特徴が少しずつ具現化してきていると言える。

26年度も継続してシアターを活用した企画などを実施し、改めて市民活動支援施設にある劇場の特徴を強く出していく必要がある。



2. 場の提供

2-3. 共同事務室(事務用ブース)

事務用ブースは、平成25年3月末で1団体が退去し、第14期中(平成25年8月末まで)は、5団体が入居。第15期(平成25年9月～)は、14期からの継続団体5団体に加え、新たに4団体が入居し、9団体となった。その後、11月末で1団体が退去。追加募集を行い、平成26年2月～1団体が新たに入居し、平成26年3月末現在、10ブース中9ブースが使用されている。開館以来ののべ入居団体は68団体。

今年度も引き続き、入居団体が個々に持つ資源や情報を入居団体同士で交換するための「情報交換会」を実施した。

(1) 情報交換会

□平成25年12月16日(月)

- ・入居団体8団体中7団体7名
市民協働推進課1名、
サポートセンタースタッフ4名 参加
- ・入居団体同士の顔合わせ、活動紹介

◆第15期事務用ブース入居団体◆

平成25年9月1日時点

- ・せんだい舞台芸術復興支援センター
- ・NPO法人仙台グリーンフケア研究会
- ・認定NPO法人IVY
- ・一般社団法人日本漆総合研究所
- ・仙台傾聴の会 → 平成25年11月末退去
- ・わしん倶楽部
- ・公益社団法人日本てんかん協会宮城県支部
- ・公益社団法人世界宗教者平和会議日本委員会
- ・NPO法人みやぎ生涯学習指導・支援センター

平成26年2月1日入居

- ・NPO法人仙台・みやぎ消費者支援ネット

2. 場の提供

2-4. ロッカー、レターケース

度が減ってきているものと考えられる。

【活動報告書】

ロッカー、レターケースでは第15期（平成25年9月～平成26年8月）の募集を行った。

ロッカーの使用率は、大96%、中91%、小66%となった。平成20年度より、空きがあれば、ロッカーを最大3個まで使用できる運用を継続している。

容量の大きな大・中のロッカー使用率は高くなっているが、小の使用率は昨年度よりも少なくなった。

レターケースの使用率は、58%で昨年度の60%からわずかに減少したがレターケースの取次件数は、3,388件で、前年度の2,389件の142%と大きく増加した。これは、総会の出欠ハガキの受付住所としてレターケースを利用した団体がいたことが要因で、郵便の取次件数が大きく増加した。一方で、FAXの取次件数は1桁の月もあり、減少が続いている。Eメールの普及などから、FAXの利用頻

ロッカー、レターケース利用団体には年2回、事務用ブース利用団体には年4回活動報告書を提出していただいている。

平成23年度から改定した活動報告の提出方法を継続。団体の総会資料やチラシなどを活動報告書として提出する団体が多く、市民への公開情報の質の向上を図ることができた。

ロッカー使用数

サイズ	設置数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均使用率
小	80	58	58	58	59	59	57	57	57	57	57	58	60	66%
中	28	25	25	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	91%
大	10	10	10	9	8	8	10	10	10	10	10	10	10	96%
計	118	93	93	93	93	93	93	93	93	93	92	93	95	79%
平均使用率		79%	79%	79%	79%	79%	79%	79%	79%	79%	78%	79%	81%	

レターケース使用数

設置数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均使用率
168	101	101	101	101	101	91	94	94	95	97	98	99	58%
平均使用率	60%	60%	60%	60%	60%	54%	56%	56%	57%	58%	58%	59%	

レターケース取次件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均件数
郵便	555	234	254	229	206	190	146	168	265	331	337	286	3201	267
FAX	46	17	17	9	15	21	15	14	5	6	5	17	187	16
計	601	251	271	238	221	211	161	182	270	337	342	303	3388	282

2. 場の提供

2-5. パソコン、印刷機

(1) パソコン

今年度のパソコン利用は、942件で、その内訳はインターネット用273件、作業用562件、持ち込みPCのネット接続（LAN）107件であった。パソコン利用の全体件数は平成21年度をピークに減少している。作業用PCの利用はこれまで5年間、600~900件の間で安定していたが、今年度は562件と、例年を下回る傾向がみられた。また、持ち込みPCのネット接続件数が昨年度の約3割程度と、昨年度を大きく下回る結果になった。

ここ数年のスマートフォン・タブレット端末の普及や、Wi-Fiなど、個人のインターネットおよび通信環境が改善され、当センターでのインターネット利用のニーズが減少したと考えられる。これらの状況を踏まえて、持ち込みPCのネット接続については、平成26年度4月に申込制の有線LANによるサービスを終了し、公衆無線LANによるサービスへと切り替えることを予定している。

■パソコン利用状況推移

	(件)		
	H23年度	H24年度	H25年度
インターネット用	549	433	273
作業用	659	712	562
持込PC-LAN接続	416	312	107
合計	1,624	1,457	942

(2) 印刷機

印刷機利用は、利用件数は1,675件、利用枚数は1,256,828枚で、利用件数、利用枚数共に減少した。

印刷物の内容は、イベント告知や団体紹介用のチラシ、会議資料、ニュースレター印刷などで、受付時の確認では、前年と比較し、チラシは

ほぼ横ばい、ニュースレターの件数が増加、その他が減少した。

■印刷機利用状況推移

	H23年度	H24年度	H25年度
利用件数(件)	1,713	1,876	1,675
利用枚数(枚)	1,669,297	1,445,588	1,256,828

■印刷物の内訳

	(件)		
	チラシ	ニュースレター	その他
4月	78	11	83
5月	106	12	74
6月	87	15	75
7月	73	21	61
8月	46	12	46
9月	55	18	63
10月	91	20	64
11月	63	15	71
12月	43	16	55
1月	35	15	55
2月	47	15	45
3月	54	13	46
計	778	183	738
前年計	797	145	936

※一度の印刷で、「チラシとニュースレター」というように複数の物を印刷する場合があるため、内訳の合計と左記の印刷利用件数は一致しない。

3. 情報の収集・提供

3-1. 情報掲示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニューズレターなど情報掲示利用件数は、4,003件で前年度と比べ102%と微増した。

情報の種別でみると、ポスターについては昨年度を下回ったが、チラシ、ニューズレターは前年度比103%程度となっている。

「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）」は、平成25年度に戦災復興記念館が参加し、参加施設数は12となった。骨プロ利用件数は引き続き上昇傾向にあり、市民活動団体に浸透していることが伺える。

■情報掲示等利用件数

	H23年度	H24年度	H25年度
チラシ	1,788	2,292	2,357
ポスター	229	296	270
ニューズレター	1,156	1,333	1,376
計	3,173	3,921	4,003

■仙台に情報の背骨を通すプロジェクト利用件数

（通称：骨プロ）

	H23年度	H24年度	H25年度
年度計	568	861	895

■骨プロ参加施設（平成26年3月末時点 12施設）

- 仙台市市民活動サポートセンター
- 仙台市中央市民センター
- せんだいメディアテーク
- 仙台市青年文化センター
- エル・パーク仙台
- エル・ソーラ仙台
- 仙台市ボランティアセンター
- 仙台国際センター
- 仙台市子育てふれあいプラザ
- のびすく仙台 / のびすく泉中央 / のびすく長町南
- 戦災復興記念館

3. 情報の収集・提供

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報ストック数は県内外あわせ4,518団体で、前年度比102%と増加した。団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシ・ニューズレター・パンフレット等を保存し蓄積してきたもので、サポセン利用者を軸にした市民活動団体の情報である。これらのファイルは、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

■ 団体情報ストック数 分野別集計

(平成25年度累計蓄積数)

分野	情報利用 *1			
	団体数	構成比	県内	県外
福祉	528	12%	446	82
健康・医療・スポーツ	439	10%	367	72
環境	600	13%	417	183
まちづくり	536	12%	470	66
子ども・教育	580	13%	463	117
人権・ジェンダー	357	8%	251	106
国際交流・協力	335	7%	207	128
文化・芸術	648	14%	562	86
市民活動支援 *2	332	7%	100	232
その他	163	4%	130	33
計	4518	100%	3413	1105
H24年度累計蓄積数	4417		3330	1087
前年度比	102%		102%	102%

*1 情報利用: 団体情報の蓄積数

*2 市民活動支援の県内は東北とよみかえる

3-3. 市民活動団体への情報提供

サポートセンターでは、市民活動に役立つ情報をテーマ毎に編集した「市民活動お役立ち情報」を利用者向けに提供している。これは、情報サロン内のチラシラックに配架され、自由にお持ち帰りできるほか、ホームページからもダウンロードできるようにしている。

このサービスは必要なテーマだけ自由に選択できることもあり、好評である。今年度の発行枚数総数は昨年度から減少しているが、「チラシ・ポスターを置けるスペース」「市民活動団体が利用できる機材一覧」の増加が目立つ。

これまでの情報発信で、団体としての定期的な報告事項ややらなければならない決まりごとについては、概ね知られるようになった。一方、市民活動の実践として、団体自身の情報発信とあわせて、活動そのものの充実などを模索している団体が多くあることがわかる。

情報発信については、骨プロの周知をいっそう図ると共に、骨プロが情報発信のツールだけではない新しい仕組みを検討しつつ団体の運営強化に役立てていければと考えている。

No.	テーマ	H23 年度	H24 年度	H25 年度
1	NPOってなんだろう？	200	400	250
2	チラシ・ポスターを置けるスペース	300	250	360
3	市民活動団体が利用	300	150	350
4	仙台市内ホールマップ	170	280	214
5	ボランティア相談窓口	220	200	200
6	助成金のいろは	300	200	300
7	規約の作り方	300	200	100
8	報告書の作り方	250	280	200
9	メディア活用大作戦	300	400	300
10	名義後援って、どうやって受けるの？	150	200	160

3-4. 図書の貸出

今年度の図書貸出件数は239件、貸出冊数は365冊と、昨年度比150%と大きく増加した。今年度はサポートセンター職員による図書のブックレビューを掲示したことで、貸出数の改善につながったと考えられる。

■図書登録、貸出件数

	H23年度	H24年度	H25年度
登録者数(人)	40	57	54
貸出件数(件)	142	155	239
貸出冊数(冊)	232	243	365

3-5. サポートセンター情報の発信

(1) サポートセンター通信「ぱれっと」の発行

震災により、社会課題の解決には、ひとつの団体だけでなく団体同士もしくは他セクターとの連携、つまり協働が有効かつ不可欠であることが明らかになったが、「協働とはどういったものなのか」が、市民・NPO・行政に今一つ浸透していない現状がある。

そのため、仙台市の「協働のまちづくり」という市政方針、サポセンの「協働のまちづくり拠点」という機能を踏まえ、今年度は「協働のまちづくり SENDAI」という特集ページを設け、多様なスタイルの協働の事例紹介を通じて、読者に「協働」への理解を深めてもらおうと考えた。

掲載団体においては、団体紹介資料として活用されるなど、広報の一助となることができたとともに、仙台市の協働関連事業でも「ぱれっと」の記事が活用され、「協働」への理解を深めるツールとなった。

(2) ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関するお知らせを行った。

7月以降、アクセス数が低迷。情報の入手先として、更新頻度の高いブログの方にユーザーが移行した可能性が考えられる。また、文字数が多く、必要な情報を見つけづらいデザインとなっていたため、今年度全面リニューアルを行った。

※詳細は、誘導啓発事業市民活動情報発信を参照

(3) ブログの管理

サポセンの日常的な情報発信ツールとして、仙台の市民活動情報や震災復興関連情報を掲載

している。

ボランティア募集情報や震災復興関連情報など、速報性やニーズも意識しながら、ほぼ毎日更新することにより、ページビューの前年度比が約150%（平均値）となった。

利用しているブログサービス「CANPAN」の解析によると、2013年の年間ページビューランキングベスト100のうち、81位にランクインした。

■ ブログ投稿記事数およびアクセス数

月	記事数(件)	ページビュー(件)
4月	31	31,626
5月	37	31,739
6月	41	31,859
7月	39	37,190
8月	31	34,464
9月	32	40,456
10月	32	36,785
11月	26	37,505
12月	30	33,857
1月	36	34,115
2月	43	36,523
3月	46	45,537
計	428	431,656

(4) twitterの管理

休館日案内、ホームページ・ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるため運用している。

フォロワーの微増が継続し、2013年5月に1000人を超え、2014年3月末で1280人となった。

twitter経由でブログやホームページを閲覧するなど、情報の拡散に一定の効果を見せている。

4. 相談

1.目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の交換や経営相談など専門的な幅広い支援を行う。

2.概要

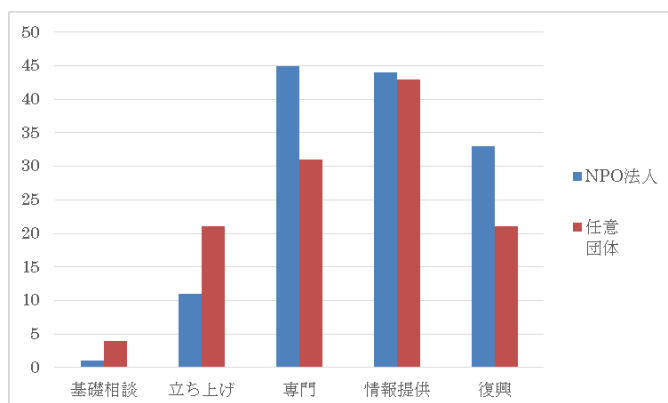
施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施する。

主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO法人の立ち上げや広報や事業計画、シニア層の個人に対するセカンドライフ相談など個別の事案に対して相談対応する個別対応がある。

3.集計方法に関して

相談事業の集計は、職員の対応方法により対面、電話、その他の対応方法に分け、相談者属性として個人、NPO/公益法人、任意団体、行政、企業、その他に区別している。

相談内容は上述の3区分に加え、その他の項目を入れている。また、区分のうち③活動相談に関しては相談内容に応じ、市民活動基礎相談、活動立ち上げ・運営相談、市民活動専門相談、情報提供・調査その他の4項目に分け集計を取っている。なお、4項目全般に対して復興支援に付随する相談に関しては復興支援活動相談として、重複して集計している。



4.成果

●全般

本年は、発災から3年をむか震災関連の相談は減少したが、市民活動基礎相談や個人への情報提供の増加により相談件数は増加した。

本年度の相談事業の最大の変化は、個人の活動相談の増加である。誘導啓発事業の実施により潜在層の相談が増加したと思われる。また、施設利用の新規団体の相談件数が増加し、新たな利用団体が増加する傾向にある。市民活動専門相談については、件数は減少しているものの労務・会計・運営等、的を絞った相談会を実施することによりワンストップで解決につなげる効果的な相談を実施した。

相談方法に関しては、電話相談から対面相談へのシフトが昨年から継続しており7割が来館相談となっている。

●相談者の背景

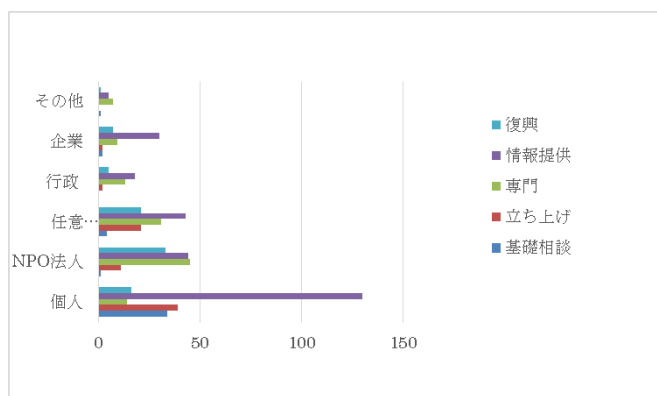
相談をされた方々は、個人や任意団体が多く、これは例年と同じ傾向にあった。

一方、顕著に表れた結果として、施設利用の新規の団体・法人の増加に伴い、利用相談が行われたことによりNPO法人の相談件数が前年度よりも増えた。

●相談内容

施設利用を新規に行う利用相談が多かった。利用相談から専門相談につながるケースも見られた。

相談件数が個人や任意団体からの件数が多いこともあり、ボランティアや市民活動の基礎知識等の基礎相談や情報提供、実務的に活動を行う相談である市民活動専門相談の件数が多かった。



●相談の傾向

多種多様な相談が寄せられる中、震災復興3年目として見られる傾向として3点ある。

復興に伴い新たに生まれた団体や復興により事業内容を新たにする団体が多くあった。局面が変化する中で、活動内容や団体のあり方の見直しを行っており、法人化や新たな資金調達、中期計画策定など団体経営の基盤強化に関する相談が寄せられた。

また、活動歴が長い団体や、財政・人員が強化された団体に関しては、資金調達や新規事業開発など、団体個々の次の発展を目指した具体的な手法に関する相談が多く寄せられた。

そして、個人に関しては、主にシニア層が多いが、就労の場としての視点を含めた市民活動への参加に関する相談が多く寄せられた。

●平成26年度の取組に関して

若者やシニア層などの潜在層に寄り添った相談体制と相談つながるサロンの充実により、市民力向上のために支援していく。

当施設の相談機能における専門性や個別性が認知されてきており、次年度も職員の相談スキルアップを図るとともに、外部の会計士や弁護士などの専門家と連携しより専門的かつ多様な相談案件に対応していく。市民協働提案制度の募集に際しては、応募団体に対し相談対応により支援を行う。

また、別途実施しているいろは塾、専門講座などとの連携を通じ、市民活動の参加者に対して常に自立的な活動を行える支援の場であることを目指す。

5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記のネットワーク会議に参加した。

○「NPO法人設立及び運営についての情報交換会」

開催日：2013年8月27日、10月31日、12月3日

会場：みやぎNPOプラザ

呼びかけ：認定NPO法人杜の伝言板ゆるる

参加：5団体

内容：NPO法人認証事務、認定NPO法人の取得手続き、その他相談事例の傾向について共有した。

○「ボランティア・市民活動ネットワーク会議」

開催日：2013年6月27日

主催：社会福祉法人仙台市社会福祉協議会

会場：仙台市福祉プラザ

参加：16団体22名

内容：ボランティアや市民活動の支援機関による情報共有、意見交換会。

○骨プロ担当者会議

開催日：2014年1月30日、3月25日

会場：仙台市市民活動サポートセンター

内容：骨プロ事業への参加施設の現状を共有し、今後の運用について課題と提案などを行った。

○せんだい創業支援ネットワーク連絡会

開催日：2013年8月28日、

参加：5団体

内容：仙台での創業・起業を目指す人へのサポー

トネットワーク構築について、関係機関の情報共有、意見交換会。シニア活動支援センターとして参加。

○市民協働推進課・地域政策課との情報交換会

開催日：2013年10月11日

会場：市民局内

内容：今後想定される、市民センターとの連携についての意見交換。

○平成25年度まちづくり専門家交流会

開催日：2013年10月30日

会場：市役所本庁舎・第二委員会室

内容：事務局による活動実績と専門家による活動報告及び、グループワークによる意見交換。

○第一回宮城高年齢者就労促進連絡会議

開催日：2013年11月29日

会場：仙台第4合同庁舎8F 共用会議室

内容：高年齢者雇用就業対策と今後の方向性について。高年齢者就労総合支援事業及び生涯現役社会実現事業との連携について。

○各区中央市民センターセンター長会議

開催日：2013年12月19日

会場：仙台市中央市民センター5F 会議室

内容：仙台市市民活動サポートセンターの機能と事業内容の説明

5. 交流・連携・その他

5-2. 会議・研修

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のように各種会議（打ち合わせ）を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度：1回／月

所要時間：約2時間／回

内容：管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○主任会議

開催頻度：2回／月

所要時間：約2時間／回

構成メンバー：センター長、副センター長、総務主任、（法人事務局長）

内容：各部門・事業の進捗管理と、サポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング

開催頻度：2回／月

所要時間：1時間／回

内容：相談業務についての共有や研修。

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

○研修

各種研修へ随時参加

内容：外部研修では、NPO中間支援組織の新人職員

対象者への研修のほか会計基準やファシリテーション、管理職対象のものなどの研修に参加。また、内部研修としてはNPO中間支援組織に在職する職員ならば知識として知っておくべき、対人援助業務に関するもの、ファンドレイジング、協働についてなどのさまざまな研修を行った。

○班ミーティング、各事業ミーティング

随時開催

○法人本部とのミーティング

月1回以上随時開催

○研修

各種研修への随時参加

内容：今年度についてはNPO会計基準の改訂への対応もあり、相談内容が質的に高まったため、外部での研修に積極的に参加した。

5-3. 視察・見学対応

今年度の視察対応は、34件、191名と昨年を上回った。

視察の目的としては、昨年同様に震災の復興事業に関わるものが多くを占めた。

学生は、団体、個人共に、復興支援に関わる団体や、その団体が手掛けている事業内容についてのヒアリングを主たる目的とする内容であった。

行政関係者は、いわゆる「協働」による支援体制の構築や、事業の進捗についての調査を目的としたものが多くみられた。

また、「協働」についての調査を目的とした視察については、行政関係者と市民活動団体との合同チームによる来館も多く、今年度の特徴的なところでもあった。

5-4. 防災避難訓練

消防法に基づき防災避難訓練を2回実施した。

実施月： 平成25年6月26日

： 平成26年3月26日

参加者：サポートセンタースタッフ

本年度は防災避難訓練に加えて消防署への通報訓練も2回実施したが、円滑に対応できており、概ね良好な訓練であった。次年度もスタッフの防災意識のさらなる徹底に努めていきたい。

5-5. 施設維持管理

1. 壁面タイル打診調査及び補修工事について

○期間 2014年1月7日(火)～2014年2月26日(水)

○工事内容

・建築基準法の定めに依る外壁タイルの打診調査及びタイルの補修

調査・補修期間中は足場を組み、建物南側全体が防護ネットで覆われた。雪害の影響で予定していた工期よりも若干の延長があったが、事故なく無事に完了した。

■平成25年度仙台市市民活動サポートセンター 年間行事

資料1

[illegible]

■主な項目のサポートセンター利用状況推移(平成18年度～25年度)

資料 2

		貸室 件数	貸室 利用者数	利用率(各 部屋平均)	フリースペース 利用件数	フリースペース 利用者数	印刷機 利用件数	印刷機 利用枚数	情報揭示 受付件数	パソコン 利用件数	相談 件数	相談人数	レターケース 取扱い件数	来訪者 件数	来訪者 人数	図書貸 出件数 ※	総利用 件数	利用者 総数
		a	a'		b	b'	c		d	e	f	f'	g	h	h'	I	A	B
平成11年度～17 年度計		17,174	207,507	82	12,518	49,268	15,461	13,570,035	19,829	10,336	7,914	9,133	24,449	752	2,732		108,417	268,640
平成18年度～23 年度計		18,148	264,178	79	19,646	72,634	10,354	9,869,959	22,056	17,178	4,018	4,438	22,235	300	1,408	396	114,331	342,658
平成24年度計		3,229	46,416	80	4,720	13,481	1,876	1,529,372	3,921	1,457	716	822	2,819	25	97	155	18,918	60,816
平成25 年度	4月	256	3,283	80	363	969	171	114,961	334	104	65	75	601	0	0	22	1,916	4,327
	5月	255	3,537	78	381	994	194	125,747	331	91	86	93	251	4	9	26	1,619	4,633
	6月	297	4,121	85	399	1,123	170	127,934	317	96	68	76	271	9	29	26	1,653	5,349
	7月	286	4,366	83	405	1,037	152	112,607	370	86	88	89	238	5	20	25	1,655	5,512
	8月	246	3,579	76	356	850	104	109,481	299	58	62	78	221	3	4	23	1,372	4,511
	9月	287	4,137	88	396	979	137	128,582	386	66	86	94	211	3	8	16	1,588	5,218
	10月	269	4,261	83	452	1,150	164	154,462	461	80	86	90	161	1	4	5	1,679	5,505
	11月	288	4,104	84	444	1,053	147	153,075	323	87	67	76	182	24	24	22	1,584	5,257
	12月	234	3,530	78	387	922	116	102,287	282	66	49	51	270	0	0	19	1,423	4,503
	1月	223	3,041	70	353	800	104	71,472	326	58	60	68	337	0	0	21	1,482	3,909
	2月	245	3,116	80	402	956	105	135,284	272	43	62	74	342	4	4	13	1,488	4,150
	3月	295	3,957	85	470	1,169	111	95,418	302	108	53	61	303	0	0	20	1,662	5,187
平成25年度計		3,181	45,032	81	4,808	12,002	1,675	1,431,310	4,003	943	832	925	3,388	53	102	238	19,121	58,061
前年度比		99%	97%	101%	102%	89%	89%	94%	102%	65%	116%	113%	120%	212%	105%	154%	96%	95%
総計		41,732	563,133	80	41,692	147,385	29,366	26,400,676	49,809	29,914	13,480	15,318	52,891	1,130	4,339	789	260,787	730,175
		a	a'		b	b'	c		d	e	f	f'	g	h	h'	I	A	B

※平成18年度に現在地に移転。

※図書貸出件数は平成22年度より総利用者件数に加算した。

$$A=a+b+c+d+e+f+g+h+I$$

$$B=a'+b'+f'+h'$$

■情報関連業務利用状況推移(平成20年度～25年度)

資料 3

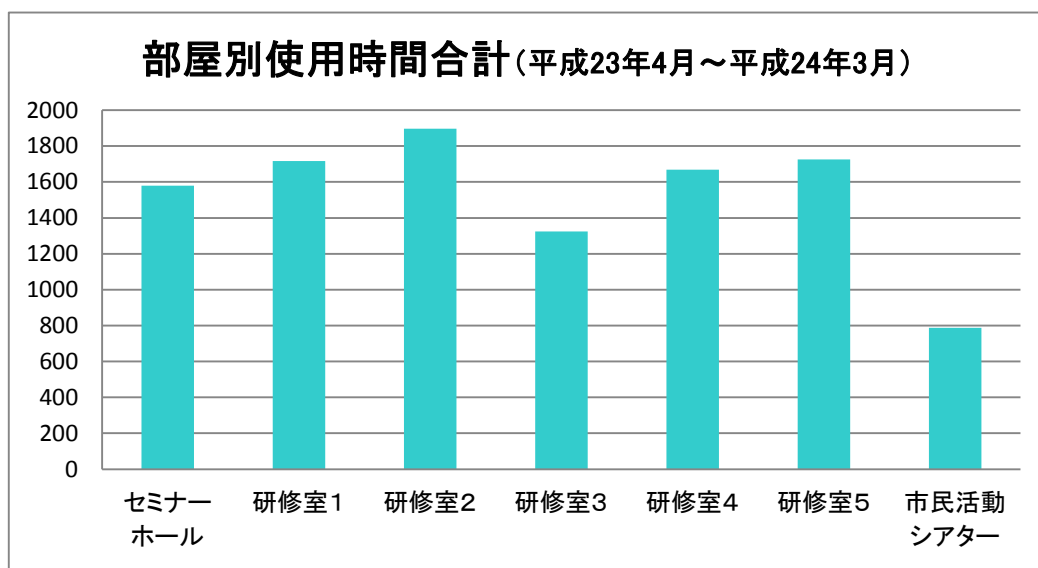
		印刷機		コピー機	パソコン				情報揭示					図書資料		
		利用件数	枚数	利用枚数	インターネット * 1	作業用	持ち込みPC ネット接続 * 2	計	チラシ	骨プロ * 3	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		1,734	1,487,976	27,636	164	659	1,089	3,012	2,327	591	273	1,406	4,006	85	259	388
平成21年度		1,768	1,601,907	27,633	1,425	880	1,964	4,269	2,486	655	314	1,446	4,246	99	341	531
平成22年度		1,670	1,538,832	25,762	1,163	801	1,161	3,125	2,009	700	285	1,169	3,463	91	254	414
平成23年度		1,713	1,669,297	24,809	549	659	416	1,624	1,788	568	229	1,156	3,173	40	142	232
平成24年度		1,876	1,445,588	17,782	433	712	312	1,457	2,292	861	296	1,333	3,921	57	155	243
平成25年度	4月	171	107,108	1,439	23	72	9	104	131	73	26	104	261	6	22	37
	5月	194	121,378	1,837	22	60	9	91	120	80	22	109	251	6	26	40
	6月	170	111,533	1,767	23	66	7	96	111	76	20	110	241	5	26	40
	7月	152	101,371	2,383	27	51	8	86	146	78	16	130	292	4	25	37
	8月	104	92,500	1,039	11	36	11	58	112	56	20	111	243	3	24	30
	9月	137	111,850	799	20	40	6	66	151	99	38	98	287	3	16	23
	10月	164	136,993	1,397	30	36	14	80	177	117	31	136	344	1	5	5
	11月	147	135,272	1,293	34	34	19	87	111	71	29	112	252	8	22	34
	12月	116	83,353	1,336	18	40	8	66	109	45	13	115	237	5	19	32
	1月	104	69,608	966	17	35	5	57	115	78	16	117	248	4	21	37
	2月	105	94,567	1,348	14	24	5	43	98	57	21	96	215	4	13	16
	3月	111	91,295	2,237	34	68	6	108	81	65	18	138	237	5	20	34
平成25年度計		1,675	1,256,828	17,841	273	562	107	942	1,462	895	270	1,376	3,108	54	239	365
前年度比		89%	87%	100%	63%	79%	34%	65%	64%	104%	91%	103%	79%	95%	154%	150%

■仙台市市民活動サポートセンター市民活動共同事務室 第13期、第14期使用状況

資料 4

[illegible]

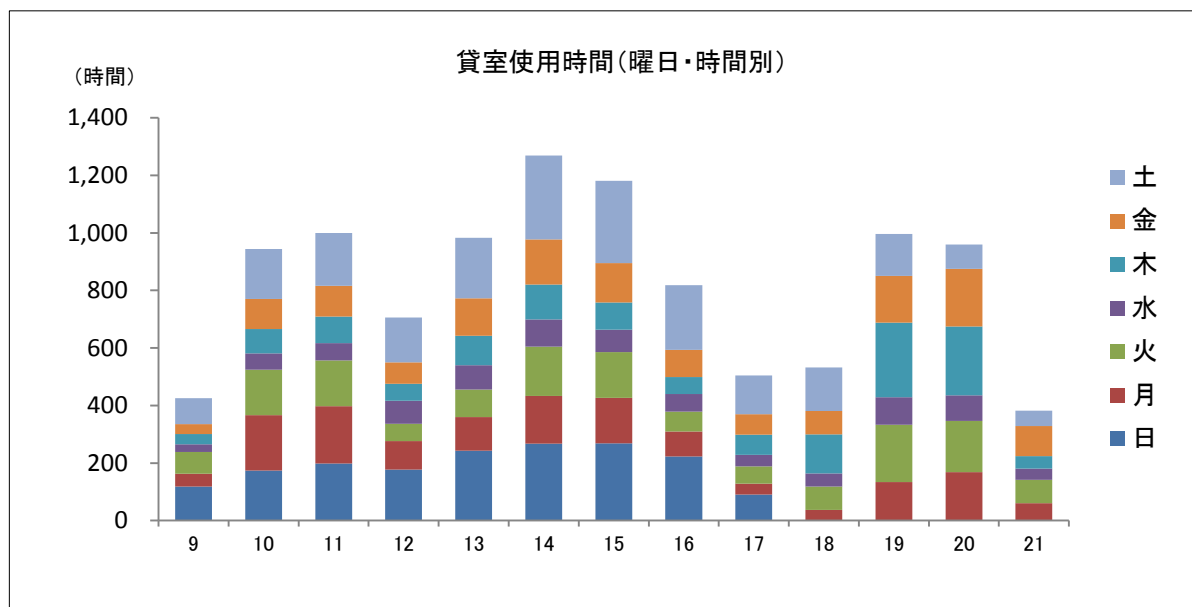
		セミナー ホール	研修室1	研修室2	研修室3	研修室4	研修室5	市民活動 シアター	合計時間
4月	時間	88	124	136	101	147	140	49	785
開館日	28 日数	21 75%	27 96%	27 96%	25 89%	27 96%	25 89%	5 18%	157 93%
5月	時間	119	130	156	119	140	154	44	862
開館日	29 日数	24 83%	25 86%	28 97%	25 86%	26 90%	24 83%	5 17%	157 90%
6月	時間	155	135	160	105	156	139	57	907
開館日	28 日数	24 86%	28 100%	27 96%	27 96%	28 100%	25 89%	8 29%	167 99%
7月	時間	180	149	178	98	167	133	97	1002
開館日	29 日数	25 86%	28 97%	29 100%	24 83%	29 100%	24 83%	10 34%	169 83%
8月	時間	129	139	150	126	117	139	56	856
開館日	29 日数	20 69%	26 90%	27 93%	27 93%	23 79%	25 86%	6 21%	154 76%
9月	時間	173	151	162	113	127	171	74	971
開館日	28 日数	25 89%	27 96%	28 100%	27 96%	28 100%	27 96%	10 36%	172 88%
10月	時間	155	142	176	105	125	154	89	946
開館日	29 日数	27 93%	26 90%	29 100%	26 90%	27 93%	25 86%	9 31%	169 83%
11月	時間	148	163	177	119	165	163	50	985
開館日	28 日数	24 86%	27 96%	28 100%	27 96%	28 100%	24 86%	7 25%	165 84%
12月	時間	110	139	144	103	127	112	107	842
開館日	26 日数	17 65%	24 92%	24 92%	23 88%	25 96%	19 73%	11 42%	143 79%
1月	時間	74	119	126	101	112	131	36	699
開館日	26 日数	13 50%	22 85%	22 85%	21 81%	22 85%	23 88%	4 15%	127 70%
2月	時間	97	125	152	107	117	121	41	760
開館日	26 日数	17 65%	25 96%	26 100%	24 92%	24 92%	24 92%	5 19%	145 80%
3月	時間	151	201	180	127	169	169	88	1085
開館日	29 日数	23 79%	29 100%	28 97%	27 93%	29 100%	28 97%	8 28%	172 85%
合計	時間	1579	1717	1897	1324	1669	1726	788	10700
開館日	335 日数	260 78%	314 94%	323 96%	303 90%	316 94%	293 87%	88 26%	1897 81%
前年度合計	日数	266 79%	315 93%	322 95%	306 91%	314 93%	297 88%	79 26%	1899 80%



■貸室使用時間(曜日・時間別集計)

資料 6

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	計
日	118	174	199	177	243	267	269	223	91	0	0	0	0	1,761
月	45	193	199	99	117	166	158	87	37	37	134	168	60	1,500
火	76	157	159	60	95	172	159	69	60	81	199	178	82	1,547
水	26	57	60	81	85	94	78	61	40	46	96	90	39	853
木	36	85	92	59	103	122	94	59	71	136	259	239	43	1,398
金	34	104	107	74	130	156	137	94	71	81	163	200	105	1,456
土	90	174	184	156	210	292	286	225	135	151	145	85	53	2,186
計	425	944	1,000	706	983	1,269	1,181	818	505	532	996	960	382	10,701



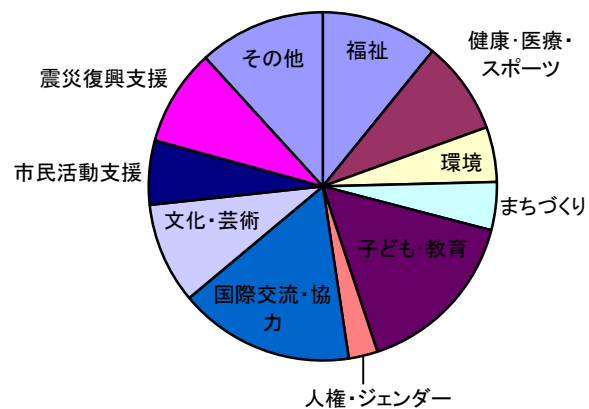
■利用団体分野別集計

資料 7

※提出された利用票の活動分野に関する回答(複数可)を集計

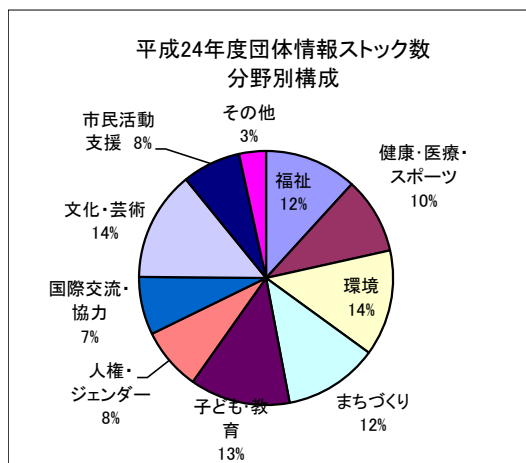
分野	来館利用		主な活動内容
	利用票	構成比	
福祉	686	11%	障害者、高齢者、福祉一般
健康・医療・スポーツ	547	9%	医療・保健・健康、スポーツの振興
環境	323	5%	食・農業、環境・エコロジー
まちづくり	282	4%	地域・まちづくり、交通などの安全対策、災害などの救援活動
子ども・教育	1004	16%	子ども、青少年、教育・学習支援、社会教育
人権・ジェンダー	170	3%	ジェンダー、男女共同参画、人権、平和
国際交流・協力	1032	16%	在日外国人、留学生支援、国際貢献・協力、国際交流
文化・芸術	593	9%	文化・芸術の振興
市民活動支援	377	6%	ミニコミ・出版、市民事業、市民活動団体の支援、助成活動
震災復興支援	568	9%	
その他	744	12%	政策提言、労働問題、コミュニティ・ビジネス、消費者保護、情報化社会等
合計	6326	100%	

利用票分野構成



分野	情報利用 *1				
	団体数	構成比	県内	県外	
福祉	520	12%	440	80	障害者、高齢者、福祉一般
健康・医療・スポーツ	430	10%	362	68	医療・保健・健康、スポーツの振興
環境	596	13%	414	182	食・農業、環境・エコロジー
まちづくり	531	12%	465	66	地域・まちづくり、交通などの安全対策、災害などの救援活動
子ども・教育	564	13%	449	115	子ども、青少年、教育・学習支援、社会教育
人権・ジェンダー	352	8%	246	106	ジェンダー、男女共同参画、人権、平和
国際交流・協力	326	7%	199	127	在日外国人、留学生支援、国際貢献・協力、国際交流
文化・芸術	618	14%	537	81	文化・芸術の振興
市民活動支援 *2	329	7%	98	231	市民事業、市民活動団体の支援、助成活動
その他	151	3%	120	31	政策提言、労働問題、コミュニティ・ビジネス、消費者保護、情報化社会等
計	4417	100%	3330	1087	1%
H23年度累計蓄積数	4196		3145	1051	
前年度比	105%		106%	97%	* 県内の団体情報も、チラシやニュースレターを受け付けた団体、サポートセンターの利用団体のみの情報とした。

*1 情報利用: 団体情報の蓄積数 *2 市民活動支援の県内は東北とよみかえる

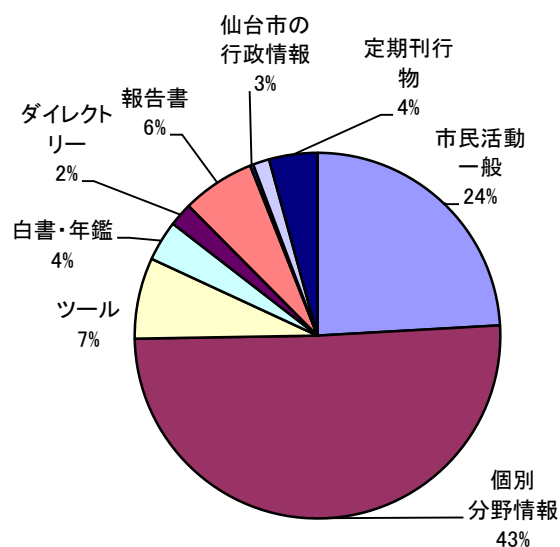


■図書資料分類別冊数

資料 9

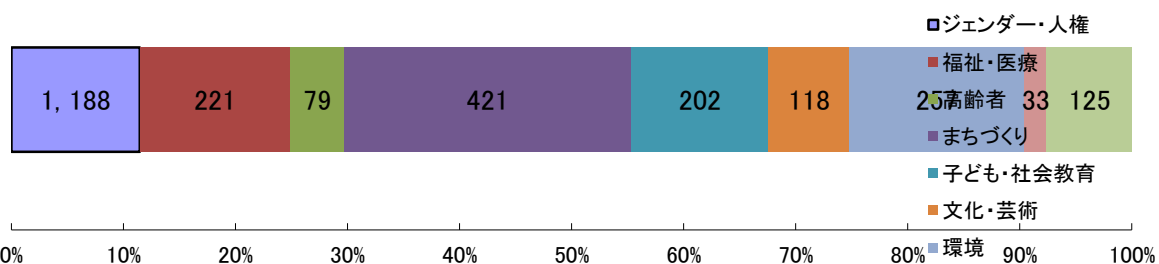
分類	分類名	種類	冊数
A-1	市民活動・NPO全般	204	209
A-2	NPO法・条例	37	40
A-3	会計・マネジメント	125	125
A-4	財団・協同組合	27	27
A-5	ボランティア	135	142
A-6	企業とNPO・フィランソロピー	106	107
A-7	行政とNPO・政策提言	107	108
A-8	NPO法・条例の経済分析	26	27
B	ジェンダー・人権	188	189
C	福祉・医療	221	225
D	高齢者	79	79
E	まちづくり	421	427
F	子ども・社会教育	202	203
G	文化・芸術	118	119
H	環境	257	258
J	インターネット・ネットワーキング	33	33
K	国際協力・NGO	125	127
L	ハウツー	151	152
M	年鑑	26	26
N	辞書	28	28
O	地図	16	16
P	白書	88	88
Q	ダイレクトリー	66	66
R	報告書	205	213
T	仙台市の行政情報	9	9
V	ビデオソフト	46	46
X	定期刊行物・雑誌バックナンバー	136	943
合 計		3182	4032

大分類	種類	内訳
市民活動一般	767	A-1,2,3,4,5,6,7,8
個別分野情報	1611	B,C,D,E,F,G,H,K,
ツール	228	J,L,N,O
白書・年鑑	114	M,P
ダイレクトリー	66	Q
報告書	205	R
仙台市の行政情報	9	T
ビデオソフト	46	V
定期刊行物	136	X
合計	3182	



大分類別冊数

個別分野情報



■サポートセンターホームページ アクセス件数集計表

資料 10

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ユニークユーザ ※1	件	2852	3286	3033	3374	2746	2595	2629	2436	2321	2678	2383	2527	32,860
ページビュー ※2	件	10422	11655	10504	10948	9001	8896	8935	8193	7959	8825	7905	8323	111,566

※1…パソコン1台を1件としたアクセス数。一日のうちであれば、同じパソコンから何度アクセスがあっても1件とする。

※2…HP内にあるサイトの総閲覧数

■ページランキング（ページビューの多いページの上位5位まで。右側の数字はページビュー）

	4月		5月		6月	
1位	トップページ	3,431	トップページ	3,634	トップページ	3,353
2位	地図	1,353	地図	1,678	地図	1,288
3位	概要	485	サポートセンター概要	597	サポートセンター概要	497
4位	シアター	418	全館フロアマップ	438	研修室	468
5位	全館フロアマップ	359	シアター	418	全館フロアマップ	369

	7月		8月		9月	
1位	トップページ	3,283	トップページ	2,835	トップページ	2,652
2位	地図	1,582	地図	1,328	地図	1,533
3位	ハッパル、フクフムプロジェクト Vol.2～定禅寺ストリートジャズフェスティバル	545	サポートセンター概要	409	サポートセンター概要	467
4位	サポートセンター概要	489	全館フロアマップ	328	研修室	351
5位	研修室	402	研修室	312	全館フロアマップ	344

	10月		11月		12月	
1位	トップページ	2,742	トップページ	2,717	トップページ	2,543
2位	地図	1,319	地図	1,084	地図	1,116
3位	サポートセンター概要	401	サポートセンター概要	390	サポートセンター概要	353
4位	全館フロアマップ	325	全館フロアマップ	313	全館フロアマップ	323
5位	研修室	309	研修室	273	研修室	317

	1月		2月		3月	
1位	トップページ	2,646	トップページ	2,412	トップページ	2,489
2位	地図	1,255	地図	1,080	地図	1,167
3位	サポートセンター概要	441	サポートセンター概要	382	サポートセンター概要	336
4位	全館フロアマップ	375	研修室	320	研修室	300
5位	研修室	348	全館フロアマップ	295	全館フロアマップ	256

■展示利用状況

第1回 (4/1～15)※休館日 4/10 利用なし	第2回 (4/16～30)※休館日 4/24 利用なし
第3回 (5/1～15)※休館日 5/8 福島集団疎開裁判仙台アクション チェルノブイリ原発事故の現状と福島第一原発事故のこれからをポスターなどで紹介した。	第4回 (5/16～31)※休館日 5/22 福島集団疎開裁判仙台アクション チェルノブイリ原発事故の現状と福島第一原発事故のこれからをポスターなどで紹介した。
第5回 (6/1～15)※休館日 6/12 利用なし	第6回 (6/16～30)※休館日 6/26 利用なし
第7回 (7/1～15)※休館日 7/10 核問題を観る会 震災では動物たちも被災した。特に福島では原発事故により置き去りにされたままの動物たちがおり、その現実や支援に奮闘する人々の姿を紹介。	第8回 (7/16～31)※休館日 7/24 利用なし
第9回 (8/1～15)※休館日 8/14 利用なし	第10回 (8/16～31)※休館日 8/28 利用なし
第11回 (9/1～15)※休館日 9/11 交通を考える研究会 クルマに頼らなくても快適に移動できるまちづくりのため、バスや自転車利用のPR展を行った。	第12回 (9/16～30)※休館日 9/25 東北 HIV コミュニケーションズ 性的少数者の自死リスクが高いと考えられているが、注目されにくい現状を周知するため、資料やパネル展示を行った。
第13回 (10/1～15)※休館日 10/9 利用なし	第14回 (10/16～31)※休館日 10/23 一般社団法人日本動物支援協会 震災後の活動の様子を、絵画・写真・パネルなどを用いて展示。
第15回 (11/1～15)※休館日 11/13 夢山房 「寄せハート」という絵を展示し、欲しい方の募集も行った。	第16回 (11/16～30)※休館日 11/27 夢山房 「寄せハート」という絵を展示し、欲しい方の募集も行った。
第17回 (12/1～16)※休館日 12/11 自己使用 これまでに開催した「ハジマル、フクラムプロジェクト」を写真とテキストで紹介。	第18回 (1/15～31) ※休館日 1/22 自己使用 これまでに開催した「ハジマル、フクラムプロジェクト」を写真とテキストで紹介。
第19回 (2/1～14)※休館日 2/12 自己使用 これまでに開催した「ハジマル、フクラムプロジェクト」を写真とテキストで紹介。	第20回 (2/15～29) ※休館日 2/26 自己使用 これまでに開催した「ハジマル、フクラムプロジェクト」を写真とテキストで紹介。
第21回 (3/1～15)※休館日 3/12 仙台市「伝える学校」 これまでに開催した「伝える学校」の様子を紹介するとともに、関連資料を展示。	第22回 (3/16～31) ※休館日 3/26 仙台市「伝える学校」 これまでに開催した「伝える学校」の様子を紹介するとともに、関連資料を展示。

■サポートセンター通信「ぱれっと」発行状況

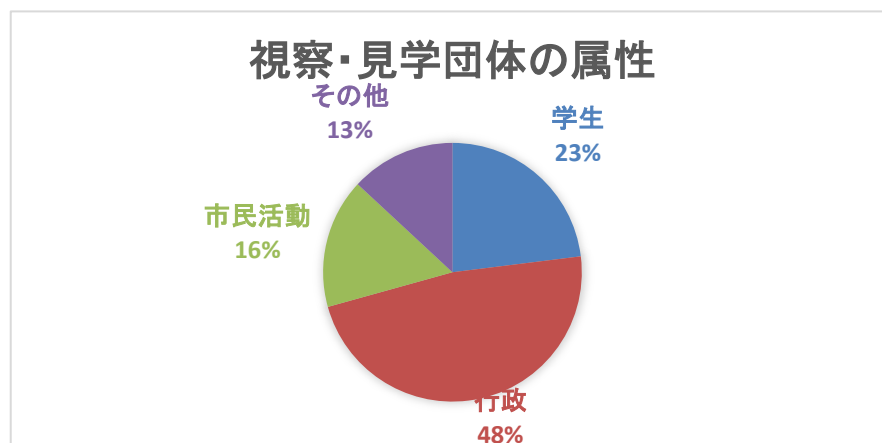
NO	号	表紙コラム	2～3ページ	4ページ	5ページ	6ページ	6ページ	配布状況				
								全国のサ ポートセン ター	行政 窓口	その 他	サポ ート セン ター 館内	計
164	4月	サポセンひとこま	特集			サポセンカレンダー	奥付	271	1598	478	444	2791
		サポセン1F	2013年サポセン活用大作戦!!	相談・つながるサロン	骨プロ							
165	5月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	TOPIC!	シニア横丁日記	サポセンカレンダー	奥付	271	1598	478	516	2863
		冊子発刊イベント	これからのまちづくり、ひとづくり	せんだい市民カフェ	NPO法人生活習慣改善センター 富澤さん							
166	6月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	復興へのあゆみ	つながるつなげるサポセン	サポセンカレンダー	奥付	271	1598	478	411	2758
		いろは塾～サポセンガイ ドツアー～	市民団体×行政 これからの防災 イドツアー～	ままふあ会	NPOいろは塾							
167	7月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	つながるつなげるサポセン	シニア横丁日記	サポセンカレンダー	奥付	271	1598	478	287	2634
		ハジフクvol.1	町内会×行政×NPO・市民団体 地域を開き活性化につなげた「まち なか農園藤坂」の取り組み	ハジマル、フクラムプロジェクト 「本」からハジマル、フクラムトークナ イト	NPO法人楽遊ネットワーク宮城 鎌 田さん							
168	8月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	復興へのあゆみ		サポセンカレンダー	奥付	270	1598	477	434	2779
		サポセン窓口	あらゆる主体のパートナーシップで 環境教育・学習を推進 FEEL Sendai	とほくる	サポセン販売書籍紹介							
169	9月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	つながるつなげるサポセン	シニア横丁日記	サポセンカレンダー	奥付	270	1598	477	270	2615
		NPOお試体験し	協働の現場から FEEL Sendaiと各団体の取り組み	NPO活動お試し体験企画	NISVAアドバイザー 我妻さん夫妻							
170	10月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	復興へのあゆみ	つながるつなげるサポセン	サポセンカレンダー	奥付	260	1598	477	655	2990
		中学生の職場体験	被災地内外の相互交流を協働で実 現 浜松市～気仙沼市本吉町 小泉自然楽校×東日本大震災復興 支援市民ネットワーク宮城×浜松市 市民協働センター	支援者のための支援センター TOMONY	続NPOいろは塾							
171	11月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	つながるつなげるサポセン	シニア横丁日記	サポセンカレンダー	奥付	260	1598	477	389	2724
		出張サポセン	復旧から復興へ～農業で地域おこ し～ ReRoots	ハジマル、フクラムプロジェクト おっかけレポート！	スマイル河原町 落合さん夫妻							
172	12月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	復興へのあゆみ	つながるつなげるサポセン	サポセンカレンダー	奥付	260	1598	476	389	2723
		展示スペース	貧困の連鎖を食い止める～協働で つくるセーフティネット～ アスイク×みやぎ生協×PSC	園児エプロンプロジェクト	「手芸」からハジマル、フクラムトー クタイム							
173	1月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	つながるつなげるサポセン	事業報告	サポセンカレンダー	奥付	273	1594	348	348	2563
		支援のかたち	支援のかたち―被災地でのパート ナーシップ―	NPO活動お試し体験企画	シニア専門相談							
174	2月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI	復興へのあゆみ	つながるつなげるサポセン	サポセンカレンダー	奥付	273	1594	489	240	2596
		ハジフクvol.4	支援を断絶させないネットワークづく り キッズドア×行政	おもいでかえる	労務講座							
175	3月	サポセンひとこま	協働のまちづくりSENDAI			サポセンカレンダー	奥付	273	1594	489	317	2673
		宮城野区文化センター 共催事業「あなたのオ モイ それぞれのカタ チ」	市民ひとりひとりが考える震災メモ リアル NPO法人20世紀アーカイブ仙台× 一般社団法人MMIX Lab×RE:プロ ジェクト×市民協働推進課									
計								3223	19164	5622	4700	32709

		年間総計	前年度	前年度比
相談件数(件)		833	715	117%
窓口別	対面	596	461	129%
	電話	218	246	89%
	その他	19	8	238%
開館日		335	335	100%
属性	個人	237	228	104%
	NPO/公益法人	160	104	154%
	任意団体	314	261	120%
	行政	33	40	83%
	企業	60	63	95%
	その他	30	19	158%
	小計	834	715	117%
相談種別	①施設利用	242	142	170%
	②施設サービス	103	137	75%
	③活動相談	488	428	114%
	その他	0	8	0%
	小計	833	715	117%

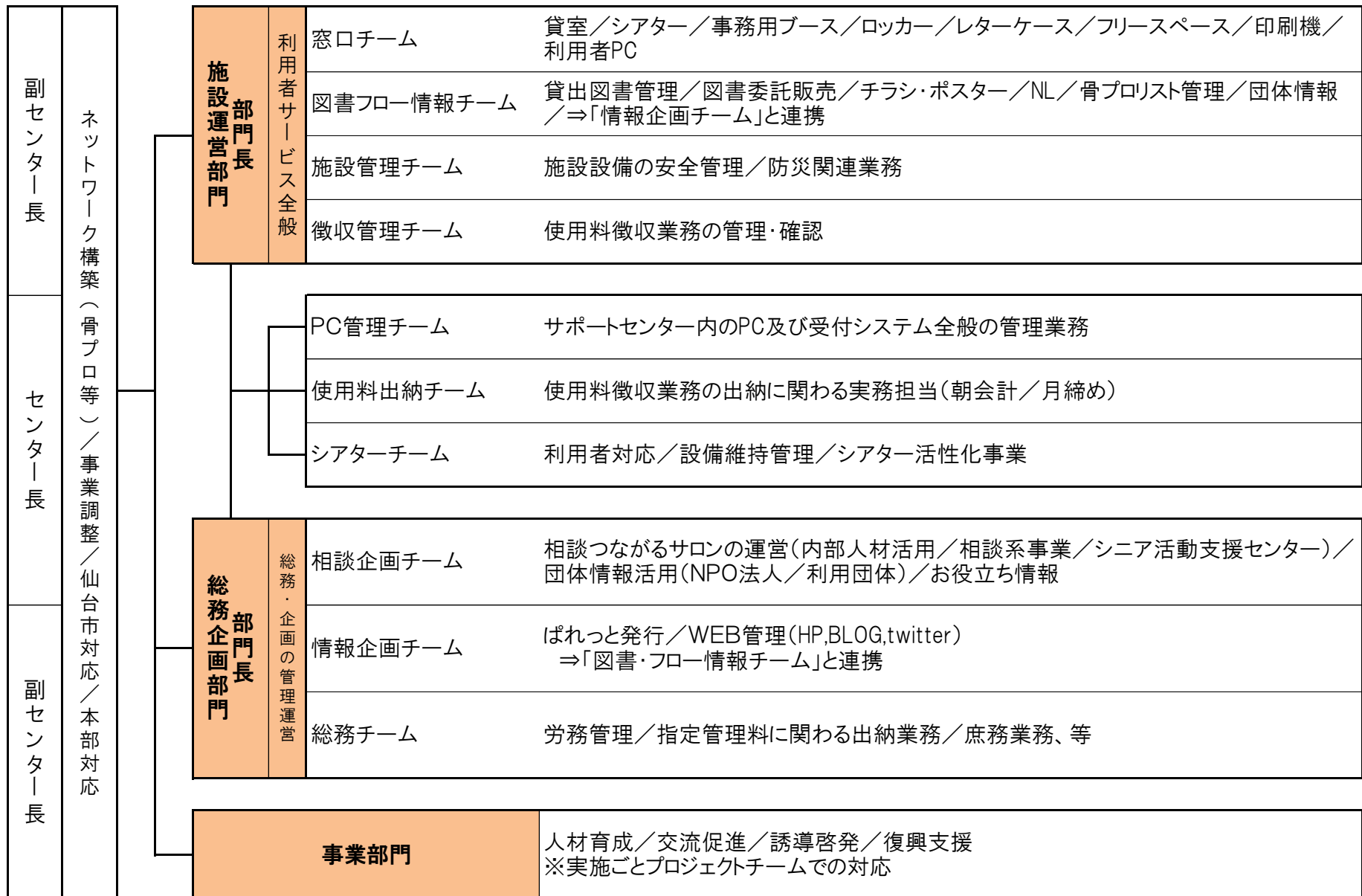
③活動相談 内容	市民活動基礎相談 (ボランティア,市民活動の基本知識等に関する相談)	42	26	162%
	活動立上げ・運営相談 (団体・法人立上げ等)	75	89	84%
	市民活動専門相談 (法務や広報、会計などの日常業務相談や、個人・団体のマッチング等の事業サポート全般)	119	151	79%
	情報提供、調査、その他	270	228	118%
	復興支援活動相談 (上記分類と重複有)	83	160	52%

総件数：34件 総人数：191名

	対応日	属性	団体名	人数
1	4月5日	行政	仙台市	40
2	4月8日	行政	仙台市	30
3	5月7日	行政	ソウル市役所	3
4	5月10日	行政	岐阜市役所市民協働推進課	2
5	5月11日	行政	札幌市市議会議員	2
6	5月11日	市民活動団体	札幌市NP0法人スタッフ	1
7	6月4日	行政	豊中市職員	1
8	6月5日	学生	東北大学	20
9	6月14日	市民活動団体	NP0法人まちおこし結っこ（湯沢市）	1
10	6月25日	市民活動団体	秋田県南NP0センター	2
11	6月25日	市民活動団体	NP0法人アミル	3
12	6月28日	行政	高知市職員	1
13	6月28日	市民活動団体	浜松市市民協働センター	2
14	7月4日	その他	はあーとぽーと仙台	8
15	7月11日	その他	富士通エフサス	7
16	7月13日	その他	個人	1
17	7月30日	市民活動団体	市民セクターよこはま	4
18	8月22日	市民活動団体	とめ市民活動ブラザ	1
19	8月27日	行政	岐阜市市議会議員	2
20	8月31日	市民活動団体	ふくしま地域活動団体サポートセンター	1
21	9月17日	市民活動団体	JAICA東北	1
22	9月20日	市民活動団体	市民活動支援センターゆいっとサロン	2
23	10月4日	行政	大阪府吹田市職員	4
24	10月10日	行政	仙台市国連防災会議準備室	2
25	10月12日	市民活動団体	杜の伝言板ゆるる	3
26	10月24日	その他	はあーとぽーと仙台	6
27	11月6日	学生	東北文化学園大学	15
28	11月6日	学生	東北学院大学	8
29	11月21日	学生	東北大学大学院	1
30	12月10日	行政	北海道帯広市職員	1
31	2月21日	その他	公益財団法人なごや建設事業サービス財	3
32	2月27日	行政	茨城県石岡市市議会議員	3
33	3月12日	市民活動団体	宮崎市市民活動センター	9
34	3月23日	市民活動団体	きょうとNP0センター	1
				191



平成25年度 仙台市市民活動サポートセンター 業務運営組織



事業名	誘導啓発事業
	市民活動情報発信
目的	従来のサポートセンターのホームページは文字が多く、必要な情報が見つけないという課題を抱えていた。スタッフでさえも「使いづらい」と感じ、時には利用者からも「リニューアルはしないのか？」との声があった。 また、アクセス解析のページビューランキングを見ると（資料 10 参照）、貸室などのハード面サービスのページはよく見られているが、相談や事業などソフト面のサービスが上位にくることは滅多にない。 そこで、以下の 2 点を重点項目とし、大幅リニューアルを企画した。 1. 情報を整理し、見やすい・分かりやすいデザインにする。 2. 相談や事業など、サポセンとして推したいメニューを目立たせる仕組みにする。
成果	リニューアル後の効果測定は来年度からとなる。 また、リニューアルをして終わりではなく、更新し活用してこそコンテンツである。来年度からしっかり運用していきたい。
実施概要	デザイナー選定の際には、TRUNK・とうほくあきんどデザイン塾にご協力いただいた。今後プロボノに関する相談等の連携先として関係性を築きたい狙いもあったためである。 過去にも事業にご協力いただいたことがあり、2013 年 8 月に他機関との連携強化を目的にスタッフが市内の主な公共施設等に出向いた時にもご挨拶に伺っていたためか、快くご協力いただけた。来年度以降は、この関係性を確固なものとしていきたい。 企画実行は、広報を担う情報企画チームとセンター長・副センター長が担った。従来の情報から取捨選択を行い、「何を見せるか」を整理した。デザイナーとのやりとりを含めた一連の流れは、プロボノの一例として相談等でも役立つ経験となった。
課題	・リニューアルに取り掛かる時間が遅く、成果測定が次年度に持ち越してしまった。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	誘導啓発事業																																
	NPOいろは塾																																
目的	1. NPO に関する基本的理解を促す。 2. 市民活動への参加や団体立ち上げのきっかけを提供し、市民活動の新たな担い手を育成する。 3. サポートセンターの機能を紹介し、利用へつなげる。参加者の 3 分の 1 がサポセンでの情報収集、市民活動団体主催のイベント参加、ボランティア体験、寄付等の支援など何らかのアクションを起こすことを目標とする。																																
成果	1. アンケートの役立ち度（5 段階）は昨年同様、平均で 4.4 と高い評価を得、自由記述の回答からも NPO の基本的理解ができた人が多かった。 2. 受講後、受講者からの立ち上げ相談が 7 件あり、いろは塾をきっかけに立ち上げを支援することができた。 3. 受講後 16 名が貸出図書を利用するなど、サポートセンターの利用促進につながることができた。 4. 情報提供の 3 か月目に同封したアンケートで、「イベント、講演会に参加した」、「ボランティアに参加した」などの声が寄せられ、受講のみにとどまらず具体的なアクションにつながることができた。																																
実施概要	(1) 開催期間：平成 25 年 5 月～平成 26 年 1 月 計 6 回開催																																
	<table><tr><th>開催日</th><th>時間帯</th><th>参加人数</th><th>参加率</th></tr><tr><td>5 月 23 日（木）</td><td>19:00～20:30</td><td>14 人</td><td>93%</td></tr><tr><td>6 月 29 日（土）</td><td>14:00～15:30</td><td>11 人</td><td>73%</td></tr><tr><td>7 月 14 日（日）</td><td>10:00～11:30</td><td>17 人</td><td>113%</td></tr><tr><td>11 月 6 日（水）</td><td>19:00～20:30</td><td>14 人</td><td>93%</td></tr><tr><td>12 月 7 日（土）</td><td>14:00～15:30</td><td>4 人</td><td>26%</td></tr><tr><td>1 月 26 日（日）</td><td>10:30～11:30</td><td>18 人</td><td>120%</td></tr><tr><td></td><td>計</td><td>78 人</td><td></td></tr></table>	開催日	時間帯	参加人数	参加率	5 月 23 日（木）	19:00～20:30	14 人	93%	6 月 29 日（土）	14:00～15:30	11 人	73%	7 月 14 日（日）	10:00～11:30	17 人	113%	11 月 6 日（水）	19:00～20:30	14 人	93%	12 月 7 日（土）	14:00～15:30	4 人	26%	1 月 26 日（日）	10:30～11:30	18 人	120%		計	78 人	
	開催日	時間帯	参加人数	参加率																													
	5 月 23 日（木）	19:00～20:30	14 人	93%																													
	6 月 29 日（土）	14:00～15:30	11 人	73%																													
	7 月 14 日（日）	10:00～11:30	17 人	113%																													
	11 月 6 日（水）	19:00～20:30	14 人	93%																													
	12 月 7 日（土）	14:00～15:30	4 人	26%																													
	1 月 26 日（日）	10:30～11:30	18 人	120%																													
		計	78 人																														
(2) 会場：仙台市市民活動サポートセンター研修室 5																																	
(3) 講師：同サポートセンタースタッフ																																	
(4) 内容（各回共通）																																	
①NPO についての基礎知識																																	
②NPO はじめの一步																																	
③サポセンガイドツアー																																	
今年度のいろは塾は、上記目的を達成するため、活動の実例紹介や、次のアクションにつなげるための情報収集の仕方や相談場所について詳しく伝える内容とした。																																	
																																	
講義の様子																																	
																																	
サポセンガイドツアーの様子																																	
(5) 受講者へのフォロー																																	
希望する受講者（78 人中 人）へ、3 か月間ぱれっととかわら版を郵送し、情報提供を行った。																																	

課題	1. いろは塾から個別相談、運営講座などの支援メニューに確実につなぐ。 26年度も実施予定の「続・NPO いろは塾」も合わせて受講を勧め、受講者のステップアップに繋げる。 2. サポートセンターの利用者に、機能や支援メニューが周知されていない。貸室やレターケースを利用していても、1階の情報コーナーや3階の相談コーナーなどの支援メニューを知る機会が少ない。 ⇒受講者から好評のサポセンガイドツアーを定期的に行い、日頃の来館者にもサポートセンターの機能を伝える。
添付資料	☐収支計算書 ☒広報記録 ☐事業詳細 ☒その他（アンケート）

平成 25 年度 NPOいろは塾参加者アンケート集計結果

講座開催日時： 平成 25 年 5 月 23 日（木）19:00～20:30

平成 25 年 6 月 29 日（土）14:00～15:30

平成 25 年 7 月 14 日（日）10:00～11:30

平成 25 年 11 月 6 日（水）19:00～20:30

平成 25 年 12 月 7 日（土）14:00～15:30

平成 26 年 1 月 26 日（日）10:30～12:00

講座参加者：78 名

アンケート回答：72 名（回答率 92%）

1. 役立ち度

1	とても役にたった	45 人	60.8%
2	役に立った	17 人	23.0%
3	ふつう	10 人	13.5%
4	あまり役に立たなかった	2 人	2.7%
5	役に立たなかった	0 人	0%

2. 理解度

1	よく理解できた	42 人	56.8%
2		23 人	31.1%
3	ふつう	8 人	10.8%
4		0 人	0.0%
5	難しかった	0 人	0.0%

3. どこで講座を知ったか

1	仙台市政だより	22 人	29.7%
2	チラシ	17 人	23.0%
3	その他	15 人	20.3%
4	サポートセンターにて	12 人	16.2%
5	ホームページ	5 人	6.8%

4. 今後どのようにセンターを利用したいか

1	相談する	50 人	67.6%
2	市民活動に関して調べる	47 人	63.1%
3	市民活動情報を収集する	43 人	58.1%
4	チラシ等で情報を発信する	16 人	21.6%
5	交流サロン等の施設利用	15 人	20.3%
6	その他	8 人	10.8%
7	サポセンを利用したい	59 人	79.7%

5. どのような事をセンターに相談したいか

1	団体の立ち上げについて	32 人	43.2%
2	ボランティア活動への参加について	22 人	29.7%
3	シニア世代の地域活動について	19 人	25.7%
4	団体の運営について	18 人	24.3%
5	任意団体の法人化について	17 人	23.0%
6	その他	6 人	8.1%

6. 自由記述欄(省略)

7. 今後 3 か月間の情報受け取り希望 58 人 (78.4%)

事業名	誘導啓発事業
	ハジマル、フクラムプロジェクト 2013
目的	「なにかしたい」と思いながらも、何から始めていいかわからない、きっかけがない。という人たちや、市民活動や NPO を知らない人を対象に、身近なテーマから活動や社会課題に触れ、交流し「何か」をはじめるきっかけをつくり、社会のためにそれぞれの形で力を発揮する市民を増やす。 ①「自分ごと」に思える切り口から、市民活動について知ってもらうこと ②それぞれの活動を紹介し合い、学びあいを生むこと ③「何か始めたい」と思っている人に対して、アクションを起こすきっかけをつくること
成果	①市民活動や NPO と言われると関心はなかったが、設定した「本」「音楽」「手芸」「スポーツ」というテーマに関心や気軽な印象を持ち、参加してくださる方が多かった。→全 4 回開催/参加者 63 のうち「市民活動を知らない」「したことがない」という参加者は 3 割以上いた。また、サボセンの存在を知ってもらうきっかけともなり、継続的に情報収集や相談で来館される方もいた。 ②参加者の中で、すでに活動している方はノウハウや裏話などの情報交換や新しい人材との出会いを求めて参加され、実際に具体的なイベント運営に関するノウハウなどの情報交換がなされた。また、活動までいたっていないが、ゲストの話から「自分のできること」と地域、社会との接点を見つけるきっかけになった。 ③ゲスト団体へのボランティアや活動に参加する方が多くいた。ハジフクで出会ったゲスト(始めた人たちのストーリー)や自分の興味関心とマッチするため関わりやすかったと思われる。ゲスト団体の活動に参加するだけでなく、会場で出会った方同士でプロジェクトを始めたり、それぞれが行うイベントや企画で協力し合ったりと活動のつながりが生まれている。(添付：報告冊子で一部紹介)
実施概要	1. 「本」からハジマル、フクラムトークナイト 開催日：2013 年 6 月 27 日(木)19:00～21:00 参加者：17 名 ゲスト：Book!Book!Sendai 実行委員会 武田こうじさん・桃生和成さん 内 容：団体の活動紹介・ゲストの方個人の思いや始めたきっかけなどトークと交流会実施。 「6 月は本の月」をキャッチフレーズに、1 ヶ月間本にまつわる様々な企画が仙台の街中で行われている。その仕掛け人 Book!Book!Sendai 実行委員会の方をお招きし、「本」からはじまった、人と街をつなげる活動について、活動を始めたきっかけや思い、人やコトをつなげる工夫などをお話しいただいた。 2. 定禅寺ストリートジャズフェスティバルを 3 倍楽しむ方法 開催日：2013 年 8 月 1 日(木)19:00～21:00 参加者：18 名 ゲスト：定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会副実行委員長 武藤政寿さん 株式会社ヤマハミュージックジャパン YAMAHA おとまち（音楽のまちづくり）プロジェクトリーダー 佐藤雅樹さん 内 容：団体の活動紹介・ゲストの方個人の思いや始めたきっかけなどトークと交流会を実施 9 月の仙台といえば街中が音楽に包まれる「定禅寺ストリートジャズフェスティバル（JSF）」。「JSF の今年の企画」や「思いから始まった JSF の 23 年 間」、また「音楽とまちがつながること」についてお話し頂いた。

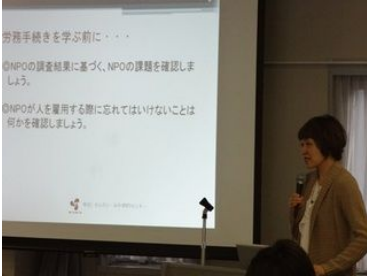
実施概要	3. 「手芸」からハジマル、フクラムトークナタイム 開催日：2013 年 11 月 9 日(木)13:00～15:00 参加者：16 名 ゲスト：リボンヌ手芸部宮城 五十嵐 香織さん 武田 和恵さん 上村 俊幸さん 内 容：団体の活動紹介・ゲストの方個人の思いや始めたきっかけなどトークと活動体験「手芸ワークショップ」を実施。 リボンヌ手芸部とは、障がいのある人が作るもの、または施設などで出る材料を再生＝Re-born させ、社会へとつなげる架け橋プロジェクト。有志で集まった部員が「自分たちがほしいもの」をテーマに材料を再生させ、商品化している。「リボンヌ手芸部」の方々から、社会や地域にある福祉の課題に対して、身近な「手芸」というツールを活かして取り組む活動についてお話をうかがった。 4. 支えて楽しむスポーツのカタチ 開催日：2014 年 2 月 1 日(土)13:00～15:00 参加者：12 名 ゲスト：市民スポーツボランティア「SV2004」 泉田和雄さん 内 容：団体の活動紹介・ゲストの方個人の思いや始めたきっかけなどトークとスポーツを通じて地域に何ができるのかアイデアをふくらますワークを実施。スポーツが盛んなまち仙台。幅広いスポーツを市民の手でサポートしている市民スポーツボランティア「SV2004」をお招きし、活動内容や想いを伺った。活動を通じた気づきやまちを元気にするボランティア活動のお話から、参加者のみなさんと、スポーツが社会に出来ることや魅力あるボランティア活動について、一緒に考えた。
課題	・実行に移すためのきっかけづくりは弱かった。 実践を通して、自分と自分の思い、自分と市民活動、自分と地域、自分と社会課題との関係を体感し、その後のアクションへつながる企画になると良い。 ・運営面では、事業運営のスタンダードな流れや会計処理などノウハウを始めのうちに整理しメンバーで共有することが必要。 ・本事業に取り組む時間を十分にとり、年間計画を立て計画的に開催すること。
添付資料	☐収支計算書 ☒広報記録 ☐事業詳細 ☒その他（パンフレット）

事業名	誘導啓発事業 NPO 活動お試し体験会
目的	退職後に、地域・社会に何か役に立ちたいと考えるシニア世代は少なくないと言われていますが、自分がどう役に立つのか、分からないという人も多いようです。そのような思いを持つ方や、経験・スキルを活かしたい方の第一歩として、シニア世代が参加しやすい NPO 活動団体と連携し「NPO 活動お試し体験会」を実施する。その活動先の団体から、活動の目的や団体紹介もしていただく。実際に活動を体験することにより、具体的な自分の活かし方や、地域・社会貢献活動への参加につながることを目的とする。
実施内容	●（1 回目）2013 年 8 月 31 日（土） ・テーマ：「みんなでまち美化活動にでかけてみませんか。」 ・案内人：NPO 法人 green bird（グリーンバード）仙台チーム 太田貴さん ・団体紹介：グリーンバードとは、「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信のプロジェクトです。主な活動は、「街のそうじ」。 ・参加者：5 名。実施後の参加者からの声 「ごみを拾いたくても一人では恥ずかしくて…みんなで一緒に活動に参加できて良かったです。」 「思ったよりタバコの吸い殻が多くてびっくりしましたが、拾うときれいになるので楽しくなってきました。」という声もあった。 ●（2 回目）2013 年 12 月 22 日（日） ・テーマ：「みんなで、まちなか農園の活動にでかけてみませんか。」 ・案内人：花壇・大手町地区グランドデザイン作成委員会、 「まちなか農園藤坂」分科会リーダー 今野均さん ・団体紹介：まちなか農園藤坂は、野菜を作る作業や収穫を楽しむだけでなく、住民同士の交流や地域のコミュニティを育てることを目的に運営している。運動会や夏祭りなどイベント毎に実行委員会を作り、企画から実施までなるべく多くの方に関わってもらおう仕掛けをつくっている。 ・参加者：男性、女性合せて 6 名。 ●（3 回目）2014 年 3 月 23 日（日） ・テーマ：「食べ物を通じて、いのちを支える社会貢献。フードバンクの活動に参加しませんか。」 ・案内人：NPO 法人ふうどばんく東北 AGAIN 事務局長 高橋陽佑さん ・団体紹介：「ふうどばんく東北 AGAIN」は、食品としての価値がありながら、賞味期限が近いなどの理由で店頭に並ばない食べ物を無償で寄付してもらい、生活困窮者へ届ける活動を行っている団体です。寄付された食品は施設に無償で提供しています。 今回は、生活困窮者支援の食事会のボランティア体験です。 ・参加者：60 代の男性 3 名。実施後の参加者からの声 「このような活動があるなんて知りませんでした。」「できれば今後、ボランティアとして参加してみたいと思います。」という、うれしい感想もあった。 ▲「まち美化活動」の様子 ▲「まちなか農園藤坂」の様子 ▲「ふうどばんく東北 AGAIN」の様子
成果	お試し体験会に参加したことで、市民活動に興味がわき社会参加のきっかけがつかめた様子。また、参加者から活発な質問や意見交換もあり、交流も図れた。 ・特別なスキルがなくても体験を活かして、社会貢献ができることを理解していただいた。 ・地域、市民活動への参加や仲間づくりのきっかけを提供し、新たな活動の担い手を育成した。 ・サポートセンターやシニアセンターの機能、支援メニューを紹介してセンターの利用に繋がった。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	人材育成事業
	NPO法人・市民活動団体のための個別相談会
目的	団体の立ち上げから解散まで、NPO法人・市民活動団体が抱える様々な活動上の悩みを個別に相談できる相談会を開催し、NPO法人・市民活動団体の活動を支え、市民活動サポートセンターで、活動に関わる様々な相談ができることを周知し、継続的に相談を受けられる環境を提供し、団体の活動を支援する。
成果	① これまで市民活動サポートセンターの相談機能を利用したことがなかった6団体が相談会に参加。相談の機会を提供した。 ② 仙台市内のNPO法人に郵送で案内を行ったことで、6団体中5団体は、市民活動サポートセンターを利用したことがなく、サポートセンターの機能の紹介にもつながった。 ③ 6団体中2団体は継続的に来館し、相談対応を継続している。 ④ 相談内容により、市民協働推進課NPO認証系の職員と一緒に相談に対応し、お互いにどのような相談を対応しているか学び合うことができた。
実施概要	実施日：平成26年3月18日(火)、3月19日(水) ※1団体については日程が合わなかったため別日で調整し実施した。 会場：仙台市市民活動サポートセンター4階 研修室4 方法：事前申込制。1団体45分。 サポートセンターのスタッフ2名が対応。 ただし、申込書に記入された相談の内容により、市民協働推進課NPO認証系の職員が同席。 申込団体：NPO法人5団体、任意団体1団体 相談内容：資金調達・助成金申請2件 理事・組織の意思統一 2件 不動産取得 1件（NPO認証係同席） 定款変更 1件（NPO認証係同席） 認定NPOについて 1件（NPO認証係同席）
課題	① 相談の中で、自団体の定款についてよくわからないNPO法人、NPO法人が必ず行わなければならない手続き等を行っていない法人があることが把握できた。こういった法人は少なくないと思われ、何らかの働きかけが必要である。 ② 理事や会員が必要人数を下回りそうである、組織内で意思統一ができないなど、NPO法人として継続が難しいと思われる相談もあり、NPO法人が解散について学べる機会の提供が必要である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	人材育成事業
	NPO専門相談 なるほどそうだったのか！“活動計算書への移行”講座個別相談会
目的	・24年度に実施したNPO基礎講座のアンケートにて個別相談の相談が多く寄せられたため「NPO法人会計」に関する相談会を実施したもの。
実施概要	1. 実施日時：4月15日（月） 2. 会場：サポートセンター 研修室 3. 講師：成田由加里氏 （公認会計士・税理士、東北大学会計大学院教授） 4. 参加団体：3団体 3月2日（土）に実施した活動計算書への移行講座の参加団体の中から希望した団体 5. 内容：団体の法人会計処理に関する質問事項に個別に回答・アドバイスを実施
成果	・団体の個別質問に回答・アドバイスをを行い、問題解決につながった。
課題	・継続的な支援体制の構築や、活動計算書への移行に関するセミナー等も必要である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業
	社会保険労務士に聞く労務無料個別相談会
目的	・「社会保険労務士に聞く労務手続き入門講座」のアンケート要望に応える ・有給スタッフや有償ボランティアのいる団体が労務に関して抱える問題の解決の一助とする
実施概要	①実施日時：3月13日（木）午後 ②会場：サポートセンター 研修室 ③講師：黒政健氏（社会保険労務士 くろまさ社会保険事務所） ④参加人数：1団体 ⑤内容：団体の労務に関する個別相談
成果	・参加団体のお悩みに対し相談解決の一助となり、高い満足度を得られた。
課題	・開催時期について、雇用を検討する時期など工夫が必要。 ・講座と個別相談との連動を事前に周知することも検討課題である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業 NPO専門講座 社会保険労務士に聞く労務手続き入門講座
目的	・NPO法人の運営に必要な労務の知識を専門家の情報提供を通して学ぶ機会を設ける。 ・NPO専門講座として昨年度実施した「会計」に引き続き「労務」をテーマにし、参加団体の経営能力の育成を図る。「がんばりすぎない」労働環境の整備について考える。 ・さまざまな立場のスタッフが混在する複雑さを抱えるNPO。職員・会員・ボランティアなどがひとつになって活動するために、働きやすさとは何かを考える。
実施概要	(1) 講座実施 ① 実施日時：1月15日（水）13:30 ～ ② 会場：サポートセンター セミナーホール ③ 講師：伊藤 浩子 氏 （特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長） 黒政 健 氏 （社会保険労務士・くろまさ社会保険労務士事務所） ④ 参加人数： 11団体 13名 ⑤ 内容： ・「NPOの職場の特性について」伊藤浩子氏 調査結果を元にした「労働環境」についてのNPOが抱える課題について ・「社会保険労務士の労務セミナー」黒政健氏 雇用関係労働者の定義（ボランティア含む） 労働条件・雇用契約 労務管理の概要（雇用から解雇まで） 雇用保険・社会保険・就業規則について   (2) ブックレット作成 講座の内容をまとめたブックレット「NPOのための労務入門」を400部作成した。今後の相談対応に活用の予定。
成果	・「活動計算書」に関する個別相談会（4月実施）において、会計の相談とともに多かった「労務」についての講座を企画実施、仙台市外からの参加もあるなどニーズに応えられた。 ・内容についての理解度が高く、ステップアップを望む声も見られた。 ・基礎知識を伝えることで、自団体の問題点に対する気づきにつながった。
課題	・入門からステップアップした内容の伝え方を検討。 ・満足度が高かったので継続開催を検討。 ・個別のお困りごとに対応するため、講座と個別相談会を連続で行うことを検討。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業 NPO運営基礎講座 ちょっとしたコツでぐっと伝わる助成金報告書の書き方
目的	・助成金の申請・報告を受ける側である財団法人より講師を招き、事業成果を的確に伝える書類の書き方、助成元が書類を通して何を読み取っているかを学ぶ講義を実施する。 ・助成金以外の活動資金を全般的に伝えることで、自団体の中長期的な資金計画についても整理する機会とする。
実施概要	① 実施日時：2月22日（土）10:00 ～ ② 会場：サポートセンター セミナーホール ③ 講師：鈴木 祐司 氏 （一般財団法人地域創造基金みやぎ専務理事・事務局長） ④ 参加人数： 17 名 ⑤ 内容： ・知っておきたい助成金の特性 ・資金提供者が本当に知りたい報告とは？ ・事業報告書で進める情報公開
成果	① 市民活動団体・NPOにとっての活動資金源としての助成金の性質・特徴を伝えられた。 ② 助成金に限らず、支援を得るために成果の報告、情報公開、基本事務力などの必要性を伝えられた。 ③ 多様な資金源の中で、中長期的な資金計画の中での助成金の位置づけについて伝えられた。 ④ 参加者団体から、地域の市民活動団体向けに今回の講座を開催したいという希望につながった。
課題	・団体によりニーズが違っているので、個別相談の時間設定があってもよい。 ・満足度が高かったので継続開催を検討。 ・開催時期がこの時期でよいのか、助成金の申請時期にあわせるか検討が必要。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業 続・NPOいろは塾
目的	NPOいろは塾受講者が自身の次のアクションを明確にできるよう、市民活動への参加方法、任意団体の立ち上げ方など具体例を用いて伝える。
実施概要	① 実施日時：9月28日（土）、2月15日（土）13:30～ ② 会場：サポートセンター 研修室 ③ 講師：サポートセンター 副センター長 太田 貴 ④ 参加人数：9月28日（土）9名、2月15日（土）9名 「NPOいろは塾」受講者のみに案内 ⑤ 内容： ・NPOへの参加方法 ・NPOの立ち上げ方（事例紹介含む） ・法人化（法人格の違い、任意団体との比較） ・サポートセンターの活用方法・ ・サポートセンターの説明 
成果	① 「NPOいろは塾」受講後のニーズであった「任意団体立ち上げ」や「法人設立」についての理解が深められ要望に応えられた。 ② 市民活動経験者が講師となることで、良いところ・悪いところを含めたNPOの実態が伝えられた。 ③ 受講者の理解度・参考度共に高く、満足度が高かった。
課題	・受講後、個別相談に結びつく件数が少なかった。 ・アクションに結びつくまでには時間が必要なので、継続して相談対応ができると良い。 ・「NPOいろは塾」の「ろ」のレベルについては伝えられたが、「は」へのステップアップの機会をどのように設定するかが課題である。
添付資料	☐ 収支計算書 ☒ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☒ その他（配布資料）

事業名	人材育成事業			
	シニア専門相談			
目的	地域・市民活動や起業などについて毎回具体的なテーマを設定し、そのテーマに精通する専門相談員による個別相談会。テーマに関心のある参加者からの相談に応え、幅広い活動紹介や情報提供・アドバイスを行う。地域・社会貢献活動を知ることにより、生きがいを持ち実践につなげる。シニア世代の持つ経験やスキルを地域・社会に還元し、地域の絆づくりや活性化につなげることを目的とする。			
実施内容	■日時	■相談テーマ	■専門相談員 団体名/氏名	■参加者 件/人数
	2013 年 5 月 18 日（土）	子どもの学びをサポートしてみませんか？学習支援の活動に関心がある方の個別相談会。	NP0 法人アスイク 代表理事 大橋雄介さん	5 件 5 名 （全員女性）
	2013 年 7 月 20 日（土）	NP0・市民活動の団体立ち上げや、地域ビジネスに関心がある方の個別相談会。	NP0 法人せんだい・みやぎ NP0 センター ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス担当 佐々木秀之さん	5 件 5 名 （男性 3 名・女性 2 名）
	2013 年 9 月 21 日（土）	まちづくり・コミュニティづくりの活動に、興味・関心がある方の個別相談会。	コミュニティ・ワークス 代表 青木ユカリさん	5 件 7 名 （男性 5 名・女性 2 名）
	2013 年 11 月 16 日（土）	ものづくりに関心のある方や、その特技を生かして社会の役に立ちたいと思う方の個別相談会。	一般社団法人 日本漆総合研究所 代表理事 蜂谷哲平さん	4 件 4 名 （全員男性）
	2014 年 1 月 18 日（土）	子どもとあそぶプロになろう！児童館ボランティアに興味・関心がある方の個別相談会。	NP0 法人 みやぎ・せんだい 子どもの丘 理事 羽賀崇子さん （仙台市岩切児童館館長）	4 件 6 名 （男性 4 名・女性 2 名）
	2014 年 3 月 15 日（土）	杜の都仙台のシンボルである広瀬川の自然環境と景観を守る活動に関心がある方への個別相談会。	広瀬川市民会議 会長理事 工藤秀也さん	3 件 3 名 （全員男性）
				
成果	・相談者が相談員の情報提供やアドバイスにより、テーマに合った活動に参加した事例が多く出た。 ・毎回定員一杯の申込みがあり、テーマとその活動に関心を持つシニア世代が多く参加された。 ・地域、市民活動への参加や起業のきっかけを提供し、市民活動や創業への新たな担い手を育成した。 ・サポートセンターやシニアセンターの機能・支援メニューを紹介し、センターの継続利用へつなげた。			
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）			

事業名	交流促進事業
	協働相談
目的	NPO、行政、企業等の協働に係る課題解決について相談できる場を設定し、協働事業提案制度の利用を促進する。
成果	協働事業提案制度の応募を検討しているNPOなど6件の相談に応じ、企画の整理・見直し、協働で行う意義の再検討、応募要件を満たしているかなど助言を行った。
実施概要	仙台市の協働事業提案制度の事前相談として、協働相談を実施。 サポートセンタースタッフが2名体制で相談対応。 相談受付期間：平成25年6月13日(木)～7月9日(火)に設定。 ※実際の相談の申込は7月2日(火)～8日(月)に集中した。 対象：協働事業提案制度応募予定の団体等 場所：仙台市市民活動サポートセンター 3階相談・つながるサロン 相談件数：9件（NPO法人3件、一般社団法人2件、企業2件、その他2件）
課題	① 協働事業提案制度自体が制度として模索中のため、協働を促進する有効な手段となっていない中で、提案制度に当てはまらない協働に関する相談も寄せられた。提案制度以外の協働促進の仕組みが必要。 ② 協働提案制度が人件費に利用でき雇用できるほどの金額の事業を想定しているため、雇用を伴う申請が多く見られたが、制度が単年度であるため、雇い止めを生みかねない状況が多々見られた。これもこの制度の不備の一環であり改善が必要と考える。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	交流促進事業
	協働サロン
目的	市民・市民活動団体・NPO法人を対象に「協働」に対する理解を促進する勉強会を行い、仙台における協働を促進する。
成果	目的を踏まえた上で、事業の実施による成果をわかりやすく箇条書きする。 ① 考えるテーブル、協働サロン合わせて 65 名の参加者があり、市民・市民活動団体・NPO法人に対し、協働の理解を促進する機会を提供できた。 ② 考えるテーブルでは、「協働の強化書 2013 プロジェクト」と協働で企画立案したため、協働の強化書 2013 プロジェクトに参画している東北大学大学院経済学研究科非営利組織論ゼミナール(西出ゼミ)の学生が多数参加し、若者と市民活動団体、行政が協働について直接意見を交換する場を設けることができた。市民活動団体や行政にとっては、普段聞くことのできない若者の意見を知る機会となり、また、学生にとっては実際に協働している市民活動団体や行政の現場の声を聞くことができる場となり、双方にとって良い刺激となった。 ③ 協働サロンでは、参加した市民活動団体・NPO法人より、アンケートを通して協働のために必要なことについて意見を集めることができた(添付資料参照)。今後、仙台で協働を促進するためのヒントがたくさんあり、次年度以降の取り組みに反映することで協働を促進する。
実施概要	1. 考えるテーブル 支援のかたち 被災地でのパートナーシップ 被災地での協働がどのように行われているか、調査報告と事例紹介。 せんだいメディアテークとの共催「考えるテーブル 支援のかたち」として実施。 企画については話題提供者の「協働の強化書 2013 プロジェクト」と協働で立案した。 日時：平成 25 年 12 月 11 日(水) 会場：せんだいメディアテーク 6f ギャラリー4200 参加者：37 名 話題提供者：中尾公一さん(協働の強化書プロジェクト 2013・西出ゼミ) 2. 協働サロン「NPO・まちづくりに関わる人が知っておくべき協働(パートナーシップ)のこと」 協働の基礎知識、協働の事例紹介(他都市の協働事例、仙台市の協働事業提案制度採択事業) 日時：平成 26 年 3 月 29 日(土)午後 2 時～午後 5 時半 会場：仙台市民活動サポートセンター6 階セミナーホール 参加者：28 名 講師：協働の基礎知識 紅邑晶子さん(NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事) 事例紹介 長田治議さん(浜松市市民協働センター センター長) 小岩孝子さん(市民協働による地域防災推進実行委員会 代表)
課題	① 協働サロンのアンケートに寄せられた意見をどのように仙台市の施策や市民活動サポートセンターの事業に反映させていくかの検討が必要。 ② 協働についての基本的な考え方がわからない市民活動団体はまだまだ多い。行政では職員向けに毎年、協働について学ぶ機会が提供されているが、市民活動団体が学ぶ機会は少ないので、今後も定期的に学べる機会をつくる必要がある。
添付資料	☐収支計算書 ☐広報記録 ☐事業詳細 ☐その他 ()

協働サロン「NPO・まちづくりに関わる人がしておくべき協働のこと」 参加者アンケートより

回収数＝10(参加者28名。回収率36%)

※回答欄の()内は属性および協働経験等

設問: 協働についてのお考えをご自由にご記入ください。

回答 Win-Winの関係が大切だと思います(任意団体・現在協働している)

補完することが必要。全てが一人でできるものではない。もっとネットワークを広げて協力し合うことが必要です。(NPO法人・過去に協働の経験がある)

協働を理解しない人が増えすぎている。具体例や事例を解説する人材を育成する必要があると感じている。(行政・現在協働している)

設問: 協働の課題はどんなことですか？

回答 協働することで時に自由に動けないことがある。(任意団体・現在協働している)

目的と手段の関係性を明らかにすること。(行政・現在協働している)

取り組み方がいまひとつわからない。(NPO法人・協働に興味がある)

NPOに浸透していない。(NPO法人・協働に興味がある)

設問: 協働をすすめるために必要なことはどんなことですか？

回答 まず知り合って思いを語り合うこと(任意団体・現在協働している)

目的別に連携できる制度を設定して欲しい。(NPO法人・協働に興味がある)

Win-Winの関係を築くこと(NPO法人・協働に興味がある)

相手をよく知り、協力できること(NPO法人・協働していない)

行政は困っていることの表明。NPOは行動したスキル・ノウハウの発信(行政・現在協働している)

協働についての制度&事例の積極的な広報(NPO法人・協働している)

設問: 協働について市民活動サポートセンターに望むこと

回答 これからもこのような研修会があれば良いと思います(任意団体・現在協働している)

引き続き「協働」の研修会をお願いします。(NPO法人・協働している)

基本的なことを学習するセミナー、シンポジウムを多く開催して欲しいと思います。(NPO法人・協働に興味がある)

協働を目指していますが、どのようにしたらよいのか、わからない事が多く、やりたい気持ちで止まってしまいます。地域、社会と一緒に課題解決を進めるためのノウハウを教えてください。(任意団体・協働に興味がある)

登記簿に記載されている目的及び事業を同じくする団体が協働できるような研修会を開催して欲しいです。(NPO法人・協働に興味がある)

1ヶ月か2ヶ月に一回位、協働について話し合える場所を提供して欲しい。(NPO法人・協働していない)

協働に関する情報発信(NPO法人・協働している)

事業名	交流促進事業												
	協働コーディネート事業												
目的	・市民活動の現場で協働による課題解決を求める場所に伺い、当該施設の資源を使った協働のコーディネートを行う。 ・震災復興の現場で協働の動きが活発であり、当施設の関与が必要とされる箇所を中心に実施する。同時に復興事業以外の協働事例の種を探す。												
成果	・地域との連携を意識した動きを行い、8月の各区施設訪問を皮切りに、翌年3月には宮城野区文化センターでの具体的な事業協働を実施。地域機関と連携して地域活動団体と文化芸術団体をつなぎ、新しい形で地域活動を可視化できた。他にも、例年続けてきた事業協働を継続し、当センターも協働のまちづくりの主体者として活動できた。 ・当センター認知度の向上												
実施概要	1、情報収集 (1) 地域施設への訪問 日時：2013年8月28日 場所：各区行政機関等 内容：市民センターなど、各区の重要な施設・機関にスタッフが伺い情報収集を実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th><th>訪問先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青葉区</td><td>青葉区中央市民センター、エルソーラ仙台、仙台市ボランティアセンター、仙台市市民図書館、仙台市産業振興事業団、コワーキングスペースソシラボ</td></tr> <tr> <td>宮城野区</td><td>仙台市中央市民センター、宮城野区役所まちづくり推進課、宮城野区中央市民センター、宮城野区文化センター、宮城野区図書館、原町児童館、のびすく宮城野、榴ヶ岡市民センター</td></tr> <tr> <td>若林区</td><td>若林区社会福祉協議会、若林区中央市民センター、10-BOX、TRUNK</td></tr> <tr> <td>太白区</td><td>太白区中央市民センター、太白区文化センター、太白区情報センター、太白区中央児童館、のびすく長町南、長町駅前プラザ、太白区社会福祉協議会、南部発達相談支援センター（南部アーチル）</td></tr> <tr> <td>泉区</td><td>泉区中央市民センター、仙台市泉図書館、のびすく泉中央</td></tr> </tbody> </table> (2) 外部企画への参加 ①TOMONYキックオフミーティング 日時：2013年4月19日 会場：みやぎ生協 榴岡店2F集会室 内容：東日本大震災後の被災者の支援にあたる人々への支援（ケアする人のケア）を目的に活動するTOMONYのイベントへ参加 ②仙台市泉社会福祉センターまつり 日時：2013年10月27日	区	訪問先	青葉区	青葉区中央市民センター、エルソーラ仙台、仙台市ボランティアセンター、仙台市市民図書館、仙台市産業振興事業団、コワーキングスペースソシラボ	宮城野区	仙台市中央市民センター、宮城野区役所まちづくり推進課、宮城野区中央市民センター、宮城野区文化センター、宮城野区図書館、原町児童館、のびすく宮城野、榴ヶ岡市民センター	若林区	若林区社会福祉協議会、若林区中央市民センター、10-BOX、TRUNK	太白区	太白区中央市民センター、太白区文化センター、太白区情報センター、太白区中央児童館、のびすく長町南、長町駅前プラザ、太白区社会福祉協議会、南部発達相談支援センター（南部アーチル）	泉区	泉区中央市民センター、仙台市泉図書館、のびすく泉中央
区	訪問先												
青葉区	青葉区中央市民センター、エルソーラ仙台、仙台市ボランティアセンター、仙台市市民図書館、仙台市産業振興事業団、コワーキングスペースソシラボ												
宮城野区	仙台市中央市民センター、宮城野区役所まちづくり推進課、宮城野区中央市民センター、宮城野区文化センター、宮城野区図書館、原町児童館、のびすく宮城野、榴ヶ岡市民センター												
若林区	若林区社会福祉協議会、若林区中央市民センター、10-BOX、TRUNK												
太白区	太白区中央市民センター、太白区文化センター、太白区情報センター、太白区中央児童館、のびすく長町南、長町駅前プラザ、太白区社会福祉協議会、南部発達相談支援センター（南部アーチル）												
泉区	泉区中央市民センター、仙台市泉図書館、のびすく泉中央												

	会場：仙台市泉社会福祉センター 内容：まつり会場において当センターのPR及びNPOいろは塾を実施。1か月後に予定していた出張相談会のご案内を実施した。「3―①仙台市泉社会福祉センター出張相談会」 2、協働ネットワークへの参画 (1) 六郷・七郷コミネット 内容：情報部会メンバーとして年間を通して活動を行った。 回数：年4回の部会、年数回の運営会議に参加 3、協働事業の実施 (1) 仙台市泉社会福祉センター出張相談会（協力：泉社会福祉センター） 日時：2013年11月26日 会場：仙台市泉社会福祉センター 内容：仙台市泉社会福祉センターと連携し、センターで活動する団体の活動予約相談を受ける。●団体の相談対応実施。 (3) 宮城野区文化センター震災復興交流事業「あなたのオモイ それぞれのカタチ」 （主催：公益財団法人仙台ひと・まち交流財団、仙台市宮城野区文化センター） 日時：2014年3月1日～9日 会場：宮城野区文化センター 内容：震災を「記憶する、記録する」「つながる、結ぶ」をテーマに、アートを通してのまちづくりや、地域活動を通して復興に携わっている団体と連携し、「語り場」を中心としながら開催した。 当センターは共催者として、主に「市民がつくる みやぎの記録保存館」「市民発、地域情報」「宮城野区 暮らしの輪郭」の企画制作に携わった。
課題	・事業協働を行った組織と築いた協力関係を、継続・発展させるための取組の実施 ・今年度の動きをモデルケースとし、各区への事業協働の展開。 ・施設管理におけるマンパワーに配慮し、バランスを取りながらの協働事業展開を実施することが必要。
添付資料	☐収支計算書 ☐広報記録 ☐事業詳細 ☐その他（アンケート）

事業名	復興支援事業 つながることがまちのチカラになる
目的	市内全域への復興公営住宅の建設や地下鉄東西線開通など、市内の地域は今までの地域背景とこれから生まれる大きな変化の過程にあり、地域づくりは一部地域だけのテーマではなく、仙台市全域かつ個別地域での大きなテーマとなる。本企画はそういった背景から、「多主体が思いを寄せ合い、行動する地域」について、考える場とする。
成果	1、復興支援から地域づくりへの移行が予想される中、「市民の力」と「地域への参加」に焦点を当て、いくつかの概念を言語化する事ができた。「活動の種」「地域活動に必要な人間の性質：土、風、光、水」「地域の部室」など 2、地域団体の経年変化と現在など昨年度事業から継続してきた強みと、区施設での実施、アートの切り口、など昨年度事業にとらわれない発想を合わせ、今後の地域のあり方を考える場づくりができた。
実施概要	タイトル：つながることがまちのチカラになる 開催日時：2014年3月9日（日）17時～19時30分 会 場：宮城野区文化センターパトナシアター 参加者数：41名 実施内容：まちの担い手同士が協働している事例を過去の報告会から継続して取り上げると共に、ゲストに「まち」と関わりアートプロジェクトを実施している方をお招きし、多様な人が主体的に参加していく地域運営について考える場をつくる。 ゲスト： 藤 浩志（十和田市現代美術館 副館長） 吉田圭俊（六郷・七郷コミネット） 吉田祐也（南蒲生復興部） 千田優太（ARCT） その他：本事業は宮城野区文化センター主催の「復興交流事業（共催：ARCT、宮城野区中央市民センター、宮城野区まちづくり推進課、仙台市市民活動サポートセンター）」内で実施した。 （詳細：P●交流促進事業）
課題	1、平成25年度で復興支援事業に一区切りをつけた中、地域や団体の動きを把握し続ける継続性 2、上記に加え交流促進事業など別事業における、地域課題解決に向けた協働事業実施などの発展性

事業名	復興支援事業
	復興支援活動報告冊子「3.11 支援のかたち」発行事業
目的	仙台市における復興支援活動や協働の取り組み例の集約
成果	復興支援活動に加え、広くこれからのまちづくりを担う活動、そして他主体との協働の事例を取り上げることで、仙台市での復旧・復興活動の特徴を示すことができた。 復旧・復興期から新しいまちづくりに移行する過渡期でもある今年度の復興支援活動報告冊子は、これまでの3年間を振り返るとともに、仙台市民活動団体、そしてサポートセンターの今後あるべき姿を考えるうえで重要な冊子となった。
実施概要	概要：仙台市内における復興支援活動を集約し、今年度は主に「協働」に着目し制作 発行部数：1,000 部 掲載内容：復興支援活動（協働事例含む）7 団体 復興支援活動報告会 サポートセンター3 年間の活動記録 配布対象：1. 全国市民活動支援機関 2. 復興支援活動団体 3. 復興関連機関 4. 当施設利用者
課題	震災発生後の市民活動は大きく変化した。個人や地域、そしてまち全体の課題が顕在化し、それらを多様な人びとが多様なつながりの中で、解決の方法を模索してきた。そのような取り組みは、どんなに小さいと思えるものであっても貴重な成果である。復興支援活動報告冊子という形態は今年度で終了するが、そのような、これからのまちづくりを行う市民活動団体の姿や成果は、今後も何かしらの形で残し、発信する必要がある。加えて、発災後からの市民活動団体が、今後どのように活動を変化させていくのか、検証も必要である。 次年度以降、さまざまな事業を通じて得た市民活動の姿を発信すべく、広く全国に伝える方法について、検討する。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ■ その他（「3.11 支援のかたち」添付）

事業名	復興支援事業
	復興支援「サポセンかわら版」発行事業
目的	市民活動団体による支援情報の集約と被災者への情報発信
成果	・昨年度に引き続き、応急仮設住宅入居者に対して、無料や安価な生活再建の支援情報や生活を潤す文化的イベントの情報を定期的に提供することができ、被災者の引きこもり防止も含めた情報発信を行うことができた。 ・地域の市民センターと連携し、復興公営住宅の入居者に向けた情報発信の可能性が生まれた。
実施概要	発行：全 10 回 4 月～12 月まで毎月 15 日発行 最終号は 2 月 15 日号（第 45 号） ※台市復興定期便により配布 発行部数：10,000～12,500 部（累計 102,500 部配布） 対象：応急仮設住宅入居者、民生委員等を対象に配布 なお 2014 年 2 月には、復興公営住宅入居者に向けた情報発信誌「田子きずな通信」を発行している田子市民センターに、かわら版掲載予定情報を取りまとめて提供した。 →かわら版事業は今年度で終了したが、引き続き当センターに集まる市民活動情報を取りまとめ、田子市民センターに提供予定
課題	震災から 3 年を迎える今年度、被災者向けの情報も少なくなり、情報収集は難しくなってきた。そこで、気軽に参加出来るイベントなどの掲載も行うことで、地域を特定とした発行物とは一線を画した情報提供のツールとなり、一定の役割を担うことができた。 しかし、情報の発信に特化した事業であったため、同じく地域で情報発信している団体との連携までは至らなかった。今年度の後半に行った宮城野区事業を経て、徐々にではあるが地域情報を発信している団体との連携が図れるようになった。復興支援かわら版事業は今年度で終了するが、これまでの成果と課題を持ち、骨プロの専門性や地域（市民センターや市民ライター）などと連携し、情報の受発信を市の隅々まで届けられる働きかけを行っていきたい。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ■その他（「サポセンかわら版」36 号～45 号添付）

事業名	シアター活性化事業
	劇場法に基づく「社会的包摂機能」強化に向けた先進事例視察
目的	平成 24 年 6 月に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法）」、またこれに関する指針において劇場のあり方が提言され、劇場として指針に則るとともに、市民活動支援施設としての本質である「誰もが生きやすい社会の実現」に向けて、その機能を再考することが目的。
成果	社会的包摂機能を打ち出している施設を視察することで、次年度以降の、市民活動サポートセンターのシアターに相応しい「場」のあり方を検討する材料を得た。
実施概要	会的包摂機能を強く打ち出している劇場はいくつかあるものの、地域性を考える必要がある他、当センターは市民活動支援施設であり、他劇場の例を転用ことはできない。 さらに、市民活動支援施設の本質を踏まえ、「劇場」という枠組みだけではなく、多様な人が行き交う「場」としてのあり方から当センターのシアターを考えることが相応しいと判断。 そこで、一般的な「劇場」ではなく、多様な人が行き交う「場」の観点から、特に社会的包摂機能が強いと思われる場を先進事例として選び、次年度以降のシアターのあり方の検討・事業提案に活かすため視察を行った。 【視察先】 1. アーツ千代田 3331 アートに興味を持つ人のみならず、誰でも気軽に利用できるのが 3331 Arts Chiyoda の特徴。第一線で活躍するアーティストやクリエイターから、地域の子どもたちまでが集い、日常的に創造力を育む文化的活動に触れることができる。東京だけでなく、日本各地や東アジアをはじめとする「新しいアートの拠点」を目指す一方、区民の方々をはじめ人々の憩いの「場」でもある。 2. リトルトーキョー 自由に自分のやりたい仕事を試しながら参加できるコミュニティ。誰でも楽しむことができる。いろいろな人や働き方に出会える「場」。 3. アーツ前橋（2/14～16 でシンポジウム開催） 市内中心部の商業施設を用途変更しており、立地条件が当センターと似ている。コンセプトは「創造的であること、みんなで共有すること、対話的であること」。芸術文化が地域に何を生み出し、もたらすのかをみんなで考え、誰にとっても必要な「場」となるようにとの願いをもって、運営されている。 視察当日、大雪によりリトルトーキョーは臨時閉館となり視察出来ず。 アーツ前橋も、雪の影響で 15 日以降臨時閉館し、シンポジウムの内容が変更。館内見学もできずヒアリングも充分には行えなかった。 上記事由により、視察は不十分となった。しかし、先方との関係性を構築する足がかりをつくることはできた。また、前橋ではアーツ前橋ができたことによる「まちの空気の変化」が表出したものともいえる、市内のプロジェクト拠点等を見学することができた。
	この視察で得た知見も交え、次年度以降のシアターのあり方を検討していく。 来年度のシアター活性化事業では、「地下／地上」など表現で境界線を越える企画を計画している。
添付資料	☐ 収支計算書 ☐ 広報記録 ☐ 事業詳細 ☐ その他（ ）

事業名	シアター活性化事業 演劇工房 10-BOX 企画・制作事業「夏の学校・座談会」への協力												
目的	下記、座談会への協力を通して、劇場空間と市民活動の融合を図る。 □座談会【以下、10-BOX WEB 抜粋】 『好奇心と創造のレッスン』と『創作実験アトリエ』の参加者が必須のプログラムです。創作のベースにある「リアリティ」を体感し、社会で起こっていることに当事者として向き合うための、普段のおしゃべりより、ちょっと緊張感のあるフォーラムです。												
成果	・座談会のゲストに市民活動団体をコーディネートし、よりテーマに深みを出すことができた。												
実施概要	■協力内容 ①場の提供 ・座談会の会場として「市民活動シアター」を提供した。 ②ゲストコーディネート <table border="1" data-bbox="236 860 1506 1155"> <thead> <tr> <th>日時</th><th>テーマ</th><th>ゲスト</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月4日（木）</td><td>人生観とか死生観とか</td><td></td></tr> <tr> <td>7月11日（木）</td><td>なにがなんでもやりたいことありますか？</td><td>NPO 法人ふうどぼんく東北 AGAIN 高橋陽佑さん</td></tr> <tr> <td>7月18日（木）</td><td>もしあなたが社会を変えられるとしたら</td><td>NPO 法人地星社 布田剛さん</td></tr> </tbody> </table> 	日時	テーマ	ゲスト	7月4日（木）	人生観とか死生観とか		7月11日（木）	なにがなんでもやりたいことありますか？	NPO 法人ふうどぼんく東北 AGAIN 高橋陽佑さん	7月18日（木）	もしあなたが社会を変えられるとしたら	NPO 法人地星社 布田剛さん
日時	テーマ	ゲスト											
7月4日（木）	人生観とか死生観とか												
7月11日（木）	なにがなんでもやりたいことありますか？	NPO 法人ふうどぼんく東北 AGAIN 高橋陽佑さん											
7月18日（木）	もしあなたが社会を変えられるとしたら	NPO 法人地星社 布田剛さん											
課題	・本取組は昨年度より継続して行っているが、この街なかの劇場を活かした取組を多主体と連携して実施していく必要がある。												
添付資料	□収支計算書 □広報記録 □事業詳細 □その他（ ）												